

とやまの近代歴史遺産

はじめに

富山県教育委員会では平成16年度から「とやまの文化財百選」事業を行っています。これは、身近な文化財を対象に、郷土の誇りとして後世に受け継いでいきたいものを選定して、県民の皆さんがふるさとの文化財の価値を再認識し、地域ぐるみで保存・活用していくきっかけにさせていただくことを目的とした取り組みです。

これまで、「土蔵」、「獅子舞」、「祭り」、「年中行事」、「お城」をテーマに取り上げました。今年度は第6弾として、富山県の近代化を支えてきた「近代歴史遺産」をテーマに、とやまの近代歴史遺産百選として選定を行いました。

このガイドブックは、とやまの近代歴史遺産の特徴や見所などとともに、選定された近代歴史遺産の概要について紹介したものです。

明治16年に富山県が誕生して以来、富山県の近代化は水との闘いと言うことができます。本書で紹介する多くはこの水に関係する資産であり、砂防堰堤、発電所、橋梁など県土を支える大事な構造物が本書で紹介されています。本書をとおして、郷土愛に溢れた多くの先人の勇気と英知の一端に触れていただきたいと考えています。是非、現地を訪れ、近代歴史遺産のすばらしさに肌で触れてみてください。

目 次

1	富山県の近代歴史遺産の種類	1
2	富山県の近代歴史遺産の特徴	2
3	本書での近代歴史遺産の分類	4
4	とやまの近代歴史遺産百選	5
5	近代歴史遺産の見方	74
6	とやまの近代歴史遺産百選分類別一覧	77
7	とやまの近代歴史遺産百選マップ	82

(表紙写真は重要文化財「白岩砂防堰堤」)

平成21年度とやま文化財百選選定委員会委員

伊東 孝

押田 洋治

白井 芳樹

埴生 雅章

牧田 潔

安カ川恵子 (五十音別、敬称略)

○とやまの近代歴史遺産百選は市町村の推薦をもとに、選定委員会で検討しました。

○所有者や管理者のご理解、ご協力をいただけるものを対象として選定しました。

○また、県民に身近な遺産として活用していただくという趣旨から、今後の活用が可能なものを対象として選定しました。

掲載した物件には、現役で使用している建物や個人住宅が含まれています。また、立入りが禁止されている場所（例えば、鉄道の軌道内や水道・発電施設、学校など）にあるものもあります。本書掲載のすべての物件が一般に公開されているわけではありません。見学の際には、事前に所有者・管理者に見学の可否と見学できる範囲を確認してください。また、児童・生徒は、保護者や教師と一緒に見学してください。見学の際には、マナーを守ってください。

編集・発行 富山県教育委員会 生涯学習・文化財室
富山市新総曲輪 1 - 7
電話 076-444-3456
<http://www.pref.toyama.jp/>

発行年月日 平成22年 3 月

印刷 ㈱タニグチ印刷

1 富山県の近代歴史遺産の種類

(1) 地形的特徴

富山県は蝶が羽を広げたような形状で、東に北アルプス、南に飛騨山地、西に宝達丘陵を置き、北を富山湾に開口している。標高3,000メートルの豪雪山岳地帯の峰々から一挙に流れ下るいくつもの雄大な河川は大きな扇状地を形成している。年間6,000mmを超える降水は、世界屈指の急流河川となり、広大なカルデラ状の地形や厳しいV字状峡谷などの自然景観を生み出している。自然災害から暮らしを守り続けるため、近代の富山県の人々は、様々な種類の構造物や一連の防災施設の建設に取り組んだ。しばしば、富山県の地形は「天然の円形劇場」と形容され、家持の「山高み 川雄大し 野を広み…」で解説されている。8世紀の天平19年4月27日、後に家持の代表作のひとつとなる「立山の賦」が作られた。「天は離る 鄙に名かかす 越の中 国内ことごと 山はしも しじにあれども 川はしも さはに行けども…(越中の各地に山はいっぱいあるけども、川はたくさん流れているけれども…)」と家持は、ものの見事に富山県の地形の特徴を万葉集に遺している。



雨晴海岸からの立山連峰



立山カルデラ



黒部峡谷

(2) 近代のあゆみ

富山平野の治水や治山を重点的に推し進めるため、県民の強く熱い要望が実り、明治16年に富山県は石川県から分県した。しかし、明治中期の度重なる大洪水によって耕作地や住宅に甚大な被害が引き起こされ、明治24年にはオランダ人技師ヨハネス・デ・レーケを招聘することとなった。デ・レーケは神通川、常願寺川、庄川など主要な河川改修を計画し、平野部の治水を指導した。さらに県の土木技師・高田雪太郎の活躍などにより、川幅の拡幅直線化、河口の分離、高い堤防の構築、農業用取水口の合口化などが実行され、山間部では県による山肌の崩壊と土砂の流失を防ぐ砂防堰堤群の建設が進められた。川の安定化に伴い、大河川の河口に設けられ北前船の寄港地であった伏木港や東岩瀬港などの港湾が、浚渫、拡幅、護岸建設などの大工事によって施設の近代化が図られた。また、鉄道軌道の敷設も明治時代のもうひとつの特徴である。日本海側の大動脈である北陸線、砺波平野の中越鉄道と建設され、物流による地場産業の活性化が図られた。

大正時代になると、治水・治山の施策は、天恵のエネルギーの源でもある『山と水を活かす』ための水力発電の建設へと展開していった。常願寺川水系の県営電気事業を皮切りに、黒部川、早月川、

神通川、庄川など県内の大小多くの水系で民間の電気事業が展開された。その豊富な発電量は、県営電気事業では昭和5年に県一般会計の8.3%に達し、昭和9年には県別水力発電で富山県が第1位となった。まさに富山県は「日本の電源地帯」であり、「水力王国富山」と称せられるようになったのである。水力発電による低廉で豊富な発電は県の工業化を誘導し、繊維産業に加え、化学工業や金属工業の工場建設が進められた。大正10年に県の工業生産額が農業生産額を上回ってからは、日本海側を代表する工業県として発展した。

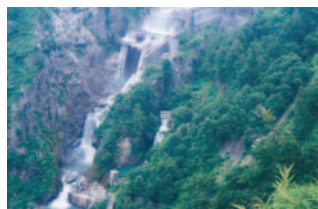
富山平野の山と川の安定化が図られると次に、都市部の整備も積極的に進められた。昭和3年に決定された富山都市計画事業は、運河の開削、街路の整備、土地区画整理の3本柱からなる全国にも珍しいプランが実行された。運河は富山湾と市街地を結んで船運による物流を促進し、その掘削土砂を神通川の廃川地に埋め立てて新たな官庁地区を設け、現在の富山県庁、電気ビル、松川、富岩運河などの都市景観を築いた。

富山県の近代化の歴史を説明するため、「明治の治水、大正の発電、昭和の都市計画」というフレーズがよく郷土史などに登場する。県内にはこの3種類の施設に加え、さらに川を跨ぐ道路橋や鉄道橋が多いことと、灌漑用の農業用水施設が県下一円に設けられていることも大きな特徴として加えることができる。近代化の5種類の特徴に共通するキーワードは「水」である。富山県の近代化は水との闘いであると言うことができよう。

2 富山県の近代歴史遺産の特徴

(1)特徴の1 急流河川に応じた多様な治水等の施設が存在すること

河川の安定化のために設けられた砂防施設では、立山カルデラ周辺に多様な種類の施設が構築されている。山腹の安定を図る落差日本一の「白岩砂防堰堤」、河川の土砂の流失を防ぐ「本宮砂防堰堤」などがある。また、早月川の五厘堤は石積の急勾配の護岸である。



白岩砂防堰堤



本宮砂防堰堤



五厘堤

(2)特徴の2 灌漑用の農業用水施設が県下一円に存在すること

富山平野の田畑を潤す農業用施設は近代になってから、用水のコンクリート化が進められ、大きな合口堰堤や合理的な分水施設などが設けられた。庄川用水合口堰堤は砺波平野の穀倉地帯に水を供給し、常西合口用水は富山平野の用水をコントロールしている。円筒分水では芸術的な用水の配分がなされている。



庄川用水合口堰堤



常西合口用水



円筒分水

(3)特徴の3 多様で数多い水力発電施設が存在すること

富山平野の急河川の豊富な水量を活用した水力発電は、大正時代から建設が始められた。旧県営電気事業の水路式発電のダムと発電所、農業用水を活用した全国的に稀有な存在の用水発電所、河岸段丘のわずかな落差を利用した水力発電所などが現在でも数多く稼動している。



真川調整池ダム



下井沢発電所



旧下山発電所

(4)特徴の4 都市計画事業による施設が改変されずに存在すること

大正時代に制定された都市計画法に基づいて富山都市計画事業が計画され、現在の県都の都市景観が出来上がった。富岩運河は市街地と富山湾とを結ぶ新たな基幹施設であり、埋め立てにできた造成地には富山県庁などの官公庁施設が設けられた。同じ廃河地に建てられた電気ビルは水力富山を象徴する建物でもある。



中島閘門



富山県庁



電気ビル

(5)特徴の5 木造駅舎や多種の橋梁が存在すること

富山平野から生産された産物の物流は、東西に敷設された北陸線と南北に敷設された民間の鉄道網によって全国に運搬された。建設当初の木造駅舎の多くは現役施設として存在している。また、道路橋、鉄道橋、水路橋など大河川を跨ぐ様々な種類の橋梁も数多く架けられており、橋のあるふるさと景観を創出している。



旧井波駅舎



笹津橋



千寿橋

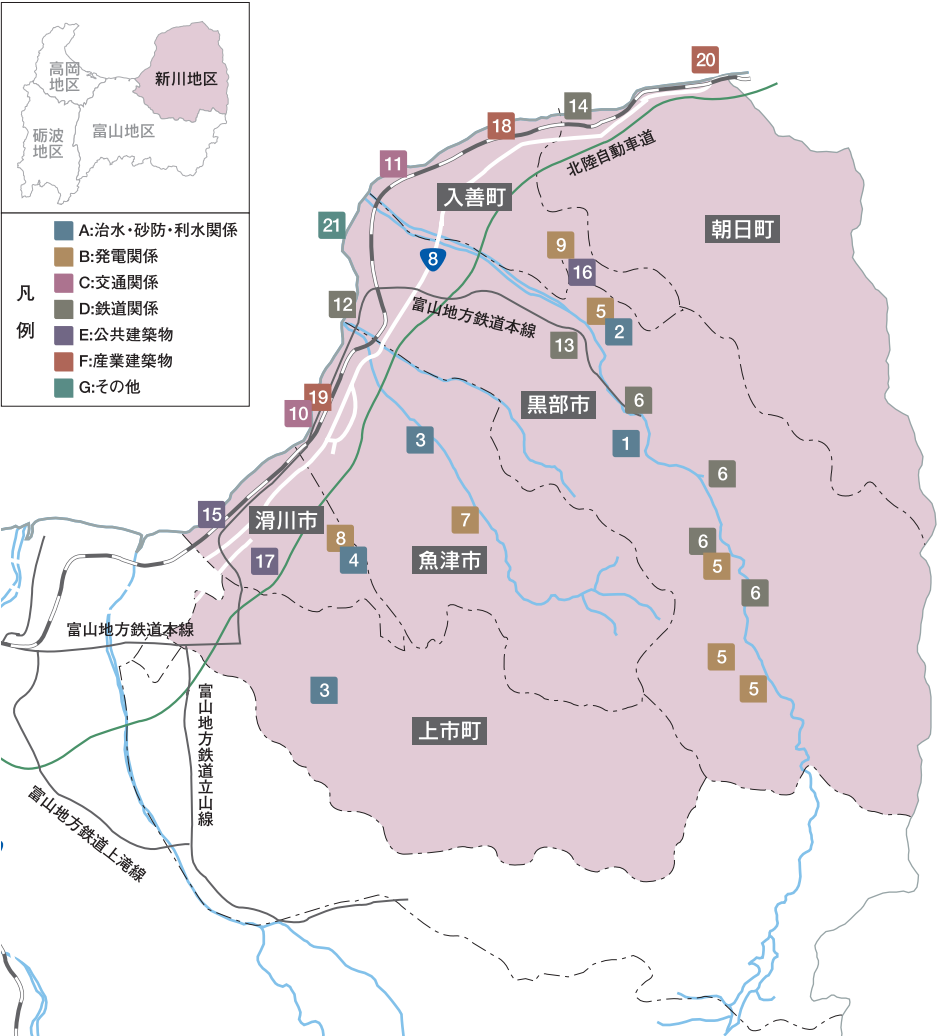
3 本書での近代歴史遺産の分類

	A:治水・砂防・利水関係	砂防ダム 治水ダム 灌漑 堤防類 上下水道 その他	
	B:発電関係	発電施設 ダム その他	
	C:交通関係	道路 道路橋 隧道 運河 灯台 船舶 測量標石 自動車	
	D:鉄道関係	鉄道施設 駅舎 鉄道橋 隧道 その他	
	E:公共建築物	官公庁 学校 図書館 病院	
	F:産業建築物	工場 作業場 事務所 銀行 倉庫 醸造所 その他	
	G:その他	公園 台場	

4 とやまの近代歴史遺産百選

新川地区

魚津市、滑川市、黒部市、上市町、入善町、朝日町





十二貫野用水

じゅうにかんのようにすい

所在地 黒部市(十二貫野)

分類 治水・砂防・利水(灌漑)

竣工 1951年(昭和26)

構造 コンクリート

所有 黒部川左岸土地改良区

概要 県東部を流れる黒部川左岸の広大な河岸段丘である十二貫野では、天保11年(1840)に椎名道三によって設けられた十二貫野用水によって、新たに約220ヘクタールの田畑が開発された。黒部川上流の支流を水源とし、16箇所の隧道やサイフォンを経由して約20キロメートルの長さを持つ。現在は県営かんがい排水事業として管水路及びトンネル工法等により暗渠化され水路はほとんど地中に姿を消した。



愛本新用水

あいもとしんようにすい

所在地 黒部市宇奈月町愛本新 入善町舟見

分類 治水・砂防・利水(灌漑)

竣工 1936年(昭和11)

構造 コンクリート造

所有 愛本新用水土地改良区

概要 県東部を流れる黒部川右岸の河岸段丘である舟見野では、享和2年(1802)に十村役の伊東彦四郎によって設けられた愛本新用水により、約400ヘクタールの田畑が開発された。黒部川上流から水をひき、雲雀野と言われた原野が開墾された。地下水も乏しい地であるので、現在も大きな役割を果たしているが、幹線水路は、愛本堰堤より取水している。



円筒分水

えんとうぶんすい

所在地 魚津市東山・貝田新 上市町釈泉寺

分類 治水・砂防・利水(灌漑)

竣工 魚津市円筒分水:1955年(昭和30)
上市町円筒分水:1959年(昭和34)

構造 コンクリート造

所有 魚津市円筒分水:魚津市土地改良区
上市町円筒分水:上市川沿岸土地改良区

概要 円筒分水とは、農業用水を正確に一定の割合で配分するため施設で、サイフンの原理で円筒状構造物の中央部から湧水させ、外周部に越流させるシステムである。大正年間に考案され、昭和初期に吹き上げ式の円筒分水が造られるようになったと言われる。魚津市の片貝川流域では、左岸の貝田新地内と右岸の東



魚津市貝田新円筒分水



上市町円筒分水



魚津市東山円筒分水

山地内に設けられている。円筒分水では美しい越流の様子を見ることができる。右岸の円筒分水は県内で初めて造られたもので、左岸からサイフォンで用水が導入されている。上市町の円筒分水は9.3メートルの径を計る大きなもので、迫力のある越流を見ることができる。



4

五厘堤

ごりんてい

所在地 滑川市大浦

分類 治水・砂防・利水（堤防類）

竣工 1896年（明治29）

構造 石積護岸

所有 富山県

履歴 土木学会選奨土木遺産
日本の近代土木遺産2800選

概要 劔岳から富山湾に流れ下る国内屈指の急流河川である早月川中流に設けられた石堤防である。明治28年の洪水で堤防が破壊され、流域に甚大な被害をもたらしたことを機に、土木技術者のヨハネス・デ・レーケの指導のもと、明治29年に五厘堤（約200m）が築堤された。堤防の高さが1に対して水平長が0.05とほとんど垂直に近い勾配で築堤されたことが「五厘堤」の名前の由来になっている。



愛本発電所



5

黒部川上流の発電所施設群

くろべがわじょうりゅうのはつでんしょせつぐん

5-1 黒部川上流の発電所とダム

所在地 黒部市宇奈月町（猫又 他）

分類 発電所関係（発電施設）

竣工 愛本発電所1936年（昭和11）
黒部川第二発電所1936年（昭和11）
黒部川第三発電所1940年（昭和15）
小屋平ダム1936年（昭和11）
仙人谷ダム1940年（昭和15）

構造 発電所：鉄筋コンクリート造
ダム：コンクリート重力式ダム

所有 関西電力株式会社

履歴 日本の近代土木遺産2800選

概要 日本屈指の急流河川である黒部川の電源開発は大正末期から開始された。急峻なV字渓谷の開発には多くの危険を伴い、また日本を代表する美しい自然環境との調和が求められた。最初の発電所は柳河原発電所（昭和3年）で、さらに上流の猫又地区に昭和11年に黒部川第二発電所が建設された。建築家・山口文象の代表作であり、峡谷の景観とマッチした建物の幾何学美を際立たせている。さらに上流の櫛平地区に建設された黒部川第三発電所は、昭和15年に完成し、急峻な山肌に溶け込んで建てられている。愛本発電所は昭和11年に建てられた旧富山県営発電所で、ろく屋根の直線的な美しさを醸し出している。小屋平ダムは櫛平の下流に設けられた昭和11年竣工の曲線美が見事なダムである。黒部川第二発電所に水を供給している。仙人谷ダムは仙人谷に設けられた昭和15年竣工のダムである。黒部川第三発電所に送水するダムであり、沈砂池を地下に建設するなど環境に十分に配慮された構造物である。



黒部川第二発電所



黒部川第三発電所



小屋平ダム



仙人谷ダム

5-2 跡曳水路橋

所在地 黒部市宇奈月町(黒蘆)

分類 発電所関係(その他)

竣工 1927年(昭和2)

構造 鉄筋コンクリートアーチ橋

所有 関西電力株式会社

履歴 土木学会選奨土木遺産
日本の近代土木遺産2800選

概要 黒部川の上流から新柳河原発電所に送水しているコンクリート製の水路橋である。支流の黒蘆川に約50メートルの高さで架けられている。長さ約48メートル、幅約10メートルを測り、水路橋としては典型的な形状であり、アーチ橋で支えられている。



関西電力株式会社提供



黒部峡谷鉄道群

くろべきょうくつどうぐん

6-1 EB5号電気機関車

所在地 黒部市宇奈月温泉

分類 鉄道関係(その他)

竣工 1926年(大正15)

構造 電気機関車

所有 関西電力株式会社

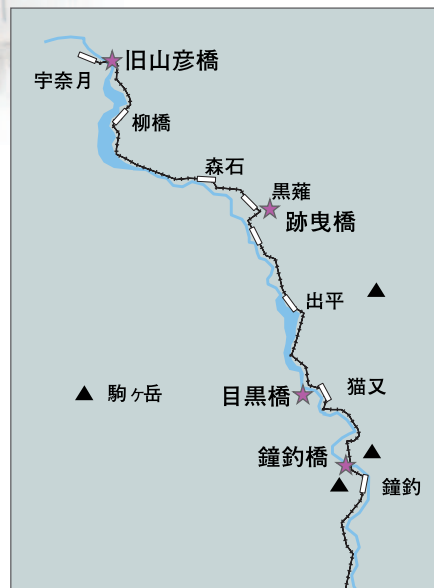
概要 黒部川の電源開発のために設けられた鉄道軌道は、昭和12年に終点の樺平まで敷設された。開発にあたった日本電力株式会社(現、関西電力株式会社)は米国製のEB5号(長さ約4メートル、幅約1.6メートル、自重約10トン)電気機関車を導入した。現在は、黒部川電気記念館の正面に屋外展示されている。

6-2 黒部峡谷の鉄道橋

所在地	黒部市宇奈月温泉(樺平まで)
分類	鉄道関係(橋梁)
竣工	旧山彦橋1924年(大正13) 鐘釣橋1928年(昭和3) 跡曳橋1925年(大正14) 目黒橋1934年(昭和9)
構造	旧山彦橋、鐘釣橋、跡曳橋:鋼アーチ橋 目黒橋:鋼桁橋
所有	旧山彦橋:黒部市 鐘釣橋・跡曳橋:黒部峡谷鉄道株式会社 目黒橋:関西電力株式会社

履歴 日本の近代土木遺産2800選

概要 黒部川発電施設群の建設用資材を運搬するため、まず大正14年に宇奈月と猫又の間に鉄道軌道が敷設され、後昭和12年に樺平まで延長された。総距離は約20キロメートルで、設けられている橋梁は16基である。旧山彦橋は大径間のアーチ橋で現在は歩道として利用されている。跡曳橋と鐘釣橋(錦秋橋)は峡谷の春秋の自然美と調合した美しいアーチ橋である。目黒橋は黒部川第二発電所への引き込み線の橋梁で、国内では珍しいフィーレンデル形式で山口文象のデザインとされる。外装の赤色が峡谷に見事に溶け込んでおり、トロッコ電車に乗った観光客の目を楽しませている。



旧山彦橋



鐘釣橋



跡曳橋



目黒橋



7 片貝第一発電所

かなかいだいいち はつでんしょ

所在地	魚津市平沢
分類	発電所関係(発電施設)
竣工	1912年(明治45)
構造	木造モルタル造(切妻屋根)
所有	北陸電力株式会社
履歴	日本の近代土木遺産2800選

概要 明治末期に造られた木造の発電所で、大きな切妻屋根に特徴がある。富山平野の東部を流れる日本屈指の急流河川である片貝川の上流に設けられた水力発電所で、日本電気化学工業会社(現、日本カーバイド魚津工場)によって建設された。この電力を活用してカーバイド化学肥料が生産されることとなり、本県における工業用電力のさきがけとなった。現在の建物は近年に鉄骨造で改築されたものである。



8 早月第一発電所

はやつきだいいち はつでんしょ

所在地	滑川市大浦
分類	発電所関係(発電施設)
竣工	1918年(大正7)
構造	木造切妻造
所有	北陸電力株式会社

履歴 大正中期に造られた木造の発電所で、切妻屋根の建物である。剣岳付近に源を発する日本屈指の急流河川である早月川の上流に設けられた水力発電所で、富山電気株式会社(現、北陸電力株式会社)によって建設された。この発電は工業用電力として活用され、化学肥料が生産された。現在の建物は昭和末期に鉄骨造で改築されたものである。



旧下山発電所

きゅうにざやまはつでんしよ

所在地 下新川郡入善町下山

分類 発電所関係(発電施設)

竣工 1926年(大正15)

構造 鉄筋コンクリート造

所有 入善町

履歴 登録有形文化財、日本の近代土木遺産2800選

概要 大正時代末に建てられた切妻屋根の発電所で、外面は赤レンガのモダンな化粧となっている。河岸段丘の低落差と農業用水を活用した珍しい小型の発電所である。北陸配電株式会社(現、北陸電力株式会社)によって建設され、現在は入善町の所有となり「下山芸術の森発電所美術館」という名称で、アート作品の展示場として活用されている。



一等三角点岨之景

いっとうさんかくてんそのけ

所在地 入善町下飯野

分類 交通関係(測量)

竣工 1895年(明治28)

構造 石造

所有 国土交通省国土地理院

概要 測量に必要な位置(緯度、経度、標高など)の基準として、標石と呼ばれる石柱によって造られている。一等三角点は全国に約1,000点あり、うち富山県内には明治中期に7点が設置された。この三角点は、飯野地区の富山湾に面した海岸砂丘(園家山)の頂上にあり、現在も測量に利用されている。



万灯台

まんとうだい

所在地 魚津市新角川

分類 交通関係(灯台)

竣工 1868年(慶応4)

構造 石造

所有 魚津市

履歴 魚津市指定有形文化財
日本の近代土木遺産2800選

概要 幕末に魚津港に設置された石造の灯台である。加賀藩の魚津町奉行が角川の河口に設けたもので、高さ5メートルで四角形の灯明台である。魚津港は、江戸時代に北海道と大阪を結ぶ日本海側の西回り航路の港として繁栄した。現在地には昭和57年に移築された。



電鉄石田駅

でんてつしだえき

所在地 黒部市岡

分類 鉄道関係(駅舎)

竣工 1940年(昭和15)

構造 木造平屋建

所有 富山地方鉄道株式会社

概要 富山県の東部と県都富山市を結ぶ私鉄の駅舎である。黒部峡谷の開発を目的とした旧黒部鉄道は昭和初期に石田港線を建設し、石田信号所として本駅は開設された。富山電気鉄道(現、富山地方鉄道株式会社)の電鉄石田駅として開業したのは昭和15年である。外観はあたかも教会のような急勾配の屋根で採光用の窓枠にデザインの工夫が見られる。



愛本駅

あいもとえき

所在地 黒部市宇奈月町内山

分類 鉄道関係(駅舎)

竣工 1923年(大正12)

構造 木造平屋建

所有 富山地方鉄道株式会社

概要 黒部峡谷の開発を目的とした発電所建設用の資材を運搬するために設けられた旧黒部鉄道の駅舎で、現在は県東部と県都富山市を結ぶ富山地方鉄道株式会社の駅舎となっている。屋根の隅切りしたデザインは当初の外観をそのまま残しており、積雪に配慮したシンプルな意匠となっている。



泊駅給水塔

とまりえききゅうすいとう

所在地 朝日町平柳

分類 鉄道関係(駅舎)

竣工 (大正)

構造 レンガ造

所有 西日本旅客鉄道株式会社

概要 北陸線は明治41年に富山と魚津間が開通し、同43年には魚津と泊駅間が開通した。泊駅と商店街の間には100本の瓦斯燈が並んだと報道されている。給水塔は構内の東側で円筒状にレンガが積み上げられて設置されている。大正時代の建設と考えられており、蒸気機関車への給水がなされた。



田中小学校

たなかしょうがっこう

所在地 滑川市加島町

分類 公共建築物(学校)

竣工 1936年(昭和11)

構造 木造二階建棧瓦葺

所有 滑川市

概要 昭和前期に建てられた県内では数が少なくなった木造校舎である。二階建てで方廊下式の典型的な学校建築である。玄関ポーチや階段の親柱などにモダンニズムのデザインが窺われる。内部の各部位には使い込まれた光沢が美しく、校下の住民のシンボルとなっている。



脇坂医院

わきさかいいん

所在地 入善町舟見

分類 公共建築物(病院)

竣工 1933年(昭和8)

構造 木造二階建

所有 個人

概要 黒部川扇状地の右岸の河岸段丘上には江戸時代に宿場町が栄え、本陣などの施設が設けられた。脇坂家は本陣を努めた家柄で、本病院はその分家筋が所有する建物である。外観は洋風で、正面の右側に採光とデザインを意識した大きなガラス窓が付けられる。昭和前期のハイカラ建築である。

17 高橋医院

たかはしいいん

所在地 滑川市小林
分類 公共建築物(病院)
竣工 1908年(明治41)
構造 木造二階建棧瓦葺
所有 個人

概要 滑川市の郊外の田園地帯で明治後期に建てられた個人医院の建物である。総二階で下見板貼の外壁を持つ洋風建築で、一階と二階に上下窓がバランスよく配置されている。正面のポーチや左右対称の外観デザインなど、明治の典型的な洋風デザインを見ることができる。



18 東洋紡入善工場事務所

とうようぼうにゅうぜんこうじょうじむしょ

所在地 入善町入善
分類 産業建築物(事務所)
竣工 1935年(昭和10)
構造 木造二階建棧瓦葺
所有 東洋紡績株式会社入善工場

概要 県東部の北陸線入善駅の至近距離に、東洋紡績株式会社入善工場が進出したのは昭和10年であり、日本の綿布の輸出量が最高に達した時期である。事務所棟は切妻造風の二階建てで二階正面にベランダを設け、大きな窓枠がはめ込まれている。ハイカラな洋風建築として知られている。



19 旧十二銀行事務所棟・米倉

きゅうじゅうにぎんこうじむしょ・こめぐら

所在地 魚津市本町
分類 産業建築物(銀行)
竣工 事務所棟1911年(明治44)
 米倉1914年(大正3)
構造 木造棧瓦葺
所有 株式会社魚津水産

概要 富山湾の海岸沿いに建ち並ぶ家並みの中に建てられた旧の銀行の事務所棟と木造の倉である。北海道やシベリア方面への商品の積み出しが行われた施設で、大正時代に起こったいわゆる米騒動の舞台のひとつである。米倉には積み出し用の米が保管されていた。明治時代に建てられた土蔵も1棟存在する。



事務所棟

米倉



20 林酒造場

はやししゅぞうじょう

所在地 朝日町境
分類 産業建築物(醸造所)
竣工 (明治)
構造 木造切妻造棧瓦葺
所有 林酒造場

概要 富山県の東端に位置する境地区で江戸前期から受け継がれている造り酒屋の建物である。旧北陸道沿いに建ち、明治時代の建設とされる二階建ての商家である。正面は右側に大戸を設けられ出格子がはめられ、その上に庇が付く。二階窓にも堅固な出格子が付いている。



生地台場

いくじだいは

所在地 黒部市生地

分類 その他(台場)

竣工 1851年(嘉永5)

構造 土堰堤

所有 黒部市

概要 生地地区は内湾した富山湾の東端で、最も海に突き出した位置にあたる。海上交通の要として灯台も設置されている。加賀藩は幕末に台場を築造し、藩兵が派遣され異国船の侵入に備えた。長さ約73メートル、幅約13メートル、高さ約5メートルで5箇所の砲台掘付部が設けられている。



ちょっとコラム

「近代砂防の祖」ヨハネス・デ・レーケ (1842~1913)

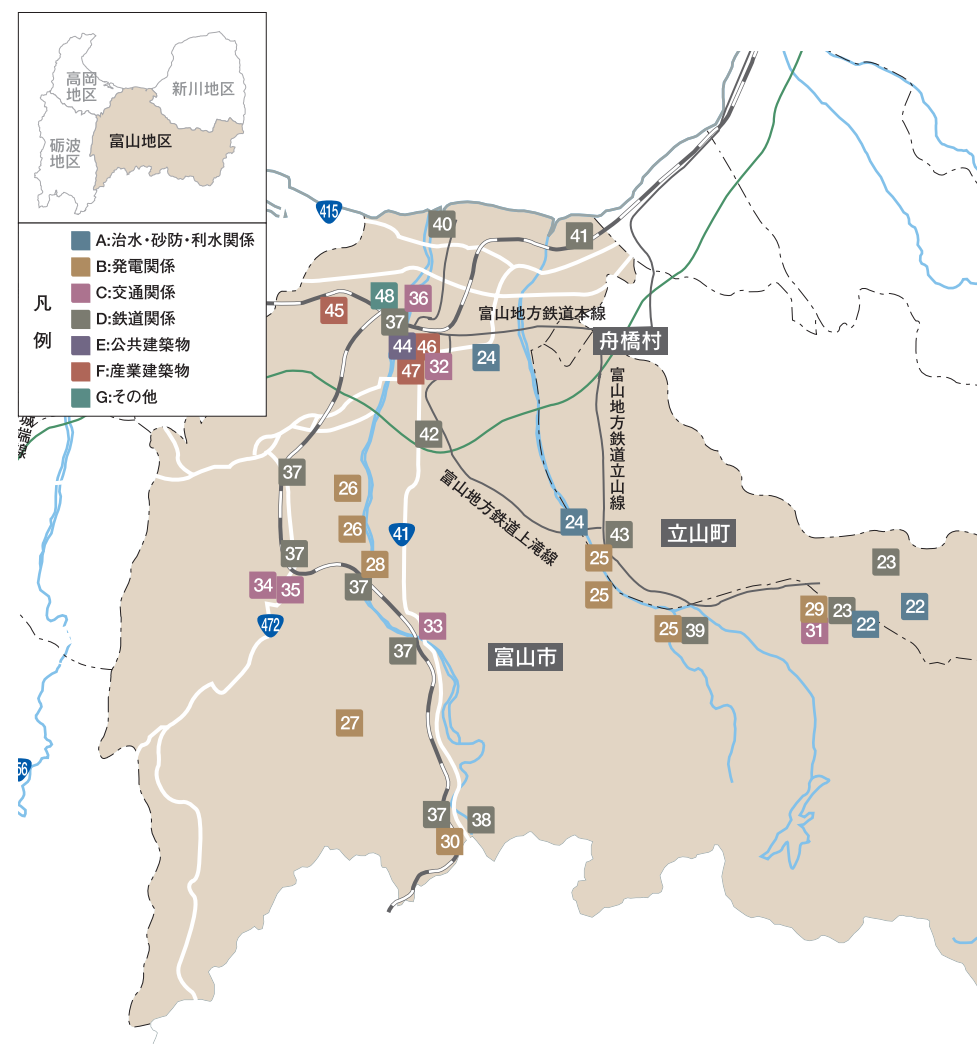
1842年オランダに生まれる。

内務省土木寮（のち土木局）雇いの技師として、明治6年（1873）から明治36年（1903）までの30年間に国内の港湾建設や河川改修に力を尽くす。富山に初めて訪れたのは、明治24年（1891）におきた常願寺川大洪水直後の水源調査の時である。カルデラ崩壊現場を見た彼は、想像を超える光景に「全山を鋼板で巻かねば…」という感想を漏らしたという。

彼の関係したおもな工事は、常願寺川治水、五厘堤、神通川の拡幅工事、白岩川、小矢部川の分離工事などがある。

富山地区

富山市、舟橋村、立山町



立山カルデラ砂防堰堤群

なてやまからでらさぼうえんていぐん

- 所在地** 富山市有峰、立山町芦峯寺、富山市本宮
- 分類** 治水・砂防・利水関係（堰堤）
- 竣工** 本宮砂防堰堤：1937年（昭和12）
泥谷砂防堰堤：1938年（昭和13）
白岩砂防堰堤：1939年（昭和14）
- 構造** 重力式コンクリート構造
- 所有** 国土交通省
- 履歴** 本宮砂防堰堤：登録有形文化財
日本の近代土木遺産2800選
泥谷砂防堰堤群：登録有形文化財
日本の近代土木遺産2800選
白岩砂防堰堤：重要文化財
日本の近代土木遺産2800選



本宮砂防堰堤



白岩砂防堰堤

概要 安政5年のマグニチュード7の大地震に起因する大規模な土石流は、富山平野を流れる常願寺下流に甚大な被害を及ぼした。未曾有の大災害に対処するため明治39年から富山県による砂防事業が始められ、大正末期から今日まで国の直轄事業として国内最大規模の砂防事業が継続されている。本宮砂防堰堤は常願寺川上流域から流れ出る土砂により河床が高くなり洪水の度に被害を受けるのを防ぐため、常願寺川本流に設けられた大規模な貯砂堰堤で、日本最大の貯砂量を誇る。泥谷砂防堰堤群は昭和13年に常願寺川支川湯川源流部の泥谷にあり、土石流の流下と山腹の崩壊を防止する目的で設けられた砂防堰堤群で、現在は樹木で被覆され自然の谷地形に復している。白岩砂防堰堤は、「白岩砂防堰堤施設」という名称で砂防施設において国内初の重要文化財となった砂防堰堤である。第7副堤までの落差は108メートルで、カルデラ内にある約2億立米の不安定な土砂を調節している。砂防の父と称せられる赤木正雄が計画した日本を代表する砂防堰堤である。



泥谷砂防堰堤



立山砂防工事専用軌道

なてやまさぼうこうじせんようきどう

- 所在地** 立山町芦峯寺（千寿ヶ原）～（水谷）
- 分類** 治水・砂防・利水関係（鉄道）
- 竣工** 1929年（昭和4）（千寿ヶ原～樺平）
- 構造** 鉄道軌道
- 所有** 国土交通省
- 履歴** 登録記念物、日本の近代土木遺産2800選
- 概要** 立山カルデラの砂防工事に必要な作業員や建設用資材の運搬のために昭和4年までに、千寿ヶ原から樺平までに敷設された工事専用の軌道である。現在の軌道は昭和40年に水谷まで完成し、長さは約18キロメートル、470mの高低差であることから世界的にも例を見ない数のスイッチバックが設けられ、全区間で38段、終点近くの樺平区間だけでは連続18段もある軌道である。





24 常西合口用水

じょうさいごくちようすい

所在地 富山市上滝・新庄など

分類 治水・砂防・利水（灌漑）

竣工 常西合口用水:1892年（明治25）
新庄排砂水門:1900年（明治33）

構造 新庄排砂水門:レンガ造

所有 常西用水土地改良区

概要 日本屈指の急流河川である常願寺川の治水を目的として明治24年に来県したオランダ人技師のヨハネス・デ・レーケは、堤防決壊の解決策として、同川左岸の12箇所の取水取水口をひとつにする計画を立て、明治26年に常西合口用水が設けられた。延長は約12キロメートルで約5000ヘクタールの富山平野が潤されている。下流域の新庄地区では、合口用水に流れ込む土砂を神通川に流す新庄排砂水門が赤レンガ造で設けられ、「新庄の赤門」として住民に親しまれ、今も現役施設として機能している。



常西合口用水



新庄排砂水門



25 旧県営発電所

きゅうけんえいはつでんじょ

所在地 富山市中地山・松ノ木・上滝

分類 発電所関係（発電施設）

竣工 1924年（大正13）

構造 鉄筋コンクリート造

所有 北陸電力株式会社

履歴 中地山発電所:登録有形文化財
松ノ木発電所:登録有形文化財
上滝発電所:登録有形文化財

概要 大正9年に富山県営水力電気事業大要が公表され、富山平野のほぼ中央部を流れ下る急流河川の常願寺川の豊富な水量を活用した県営電気事業が始まった。大正13年には水路式水力発電で中地山、松ノ木、上滝発電所が竣工し、日本の電源地帯としての富山県の地位が築かれた。中地山発電所は切妻屋根の平屋建で水車と発電機の1対を収めている。松ノ木発電所の屋根は下弦材をアーチにした鉄骨トラスで支えられている。上滝発電所では3機の水車が回り、わずかに傾斜したろく屋根となっている。この3発電所は富山県内の初期鉄筋コンクリート建物としても重要である。



中地山発電所



松ノ木発電所



上滝発電所

牛ヶ首用水発電所群

うしがくびようすいはつでんしょぐん



所在地 富山市八尾町薄島・婦中町成子・広田・下井沢

分類 発電所関係(発電施設)

竣工 下井沢発電所:1935年(昭和10)
四津屋発電所:1922年(大正11)
五平定発電所:1922年(大正11)
成子第二発電所:1934年(昭和9)
成子第一発電所:1922年(大正11)
薄島発電所:1937年(昭和12)

構造 鉄筋コンクリート造

所有 北陸電力株式会社

履歴 下井沢発電所:日本の近代土木遺産2800選
四津屋発電所:日本の近代土木遺産2800選

概要 富山平野北部の田畑を潤す灌漑用水である牛ヶ首用水の豊富な水量と、わずかの落差を活用した全国的にもあまり例をみないユニークな水力発電所は、神通川電気株式会社によって大正後期から昭和前期にかけて次々に設けられた。一番下流部にある下井沢発電所は、鉄筋コンクリート造ではあるもののアクセントのある切妻屋根で棧瓦葺となっている。他の発電所は方形の鉄筋コンクリート造建物である。発電所に接近して設けられている余水吐けの越流部から、水しぶきを上げながら用水に戻される水流は見所のひとつである。環境にやさしいクリーンなエネルギーの代表と評される。なお、6箇所の発電所の合計発電量は約12,000キロワットである。



下井沢発電所



四津屋発電所



薄島発電所



五平定発電所



成子第二発電所



成子第一発電所



久婦須川第一発電所

くぶすがわだいいちはつでんしよ

所在地 富山市八尾町桐谷

分類 発電所関係(発電施設)

竣工 1925年(大正14)

構造 鉄筋コンクリート造

所有 北陸電力株式会社

概要 大正時代末に旧石動電気が建設し、旧飛越電気株式会社に譲渡された発電所で、本県の水力電気事業の成り立ちと変遷を考える上で大事な発電所である。近年に大規模な改修がなされて外観も変貌し、場所も至近距離に移動して設けられているが、周囲の急峻な山あいには溶け込んだ外観となっている。



大久保発電所

おおくぼはつでんしよ

所在地 富山市塩

分類 発電所関係(発電施設)

竣工 1899年(明治32)

構造 木造切妻造

所有 北陸電力株式会社

履歴 日本の近代土木遺産2800選

概要 明治時代後期に本県で初めて設けられた小型の発電所で、電源王国富山の嚆矢として知られる。神通川の河岸段丘の低落差と農業用水を利用した北陸地方特有の水力発電所である。富山電灯株式会社によって設けられ、運転開始時には150KWであり、富山市内の家庭用電力として供給された。現在の建物は近年に大幅な改修がなされたものである。



真川発電所と真川調整池ダム

まがわはつでんしよとまがわちようせいいけだむ

所在地 富山市本宮

分類 発電所関係(発電施設)

竣工 1930年(昭和5)

構造 発電所:鉄筋コンクリート造
ダム:バッドレスダム

所有 北陸電力株式会社

履歴 真川調整池ダム:日本の近代土木遺産2800選

概要 常願寺川上流域での富山県営水力電気事業は大正後期の3発電所による発電開始の後、第二期工事として昭和5年の真川発電所と真川調整池ダムの建設がなされた。さらに、小見発電所、称名川第二発電所と続き、昭和9年に国内の県別水力発電で富山県が全国第1位(約405,000キロワット)となった。真川発電所は称名川との合流点に近い常願寺川左岸に設けられており、山麓を一直線に下る水圧鉄管に見応えがある。真川調整池ダムは大品山の中腹に設けられた中間貯水槽で、国内では極めて珍しいバッドレスダムの構造を持つ。山中でひっそりと格子の構造美を誇っている。



真川発電所



真川調整池ダム



蟹寺発電所

かにでらほつでんしょ

所在地 富山市蟹寺

分類 発電所関係(発電施設)

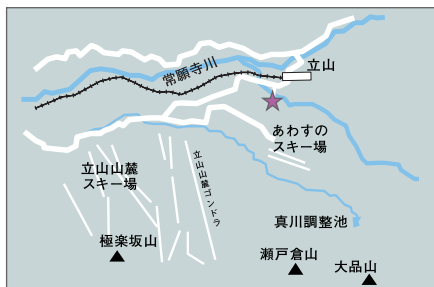
竣工 1925年(大正14)

構造 鉄筋コンクリート造(ろく屋根)

所有 関西電力株式会社

履歴 日本の近代土木遺産2800選

概要 大正末期に、神通川の支流である宮川の豊富な水量と大きな落差を利用した水力発電所である。完成当時は東洋一の大出力(50,000kw)を誇った。日本電力株式会社(現、関西電力株式会社)によって建設された。建物は急峻な谷間で山肌に沿って周囲の山林に溶け込むように建設されており、自然景観との調合に対する配慮が伺われる。



千寿橋

せんじゅばし

所在地 立山町芦峯寺(千寿ヶ原)

分類 発電所関係(その他)

竣工 1931年(昭和6)

構造 アーチ橋

所有 北陸電力株式会社

履歴 日本の近代土木遺産2800選

概要 常願寺川の左岸の小見地区には昭和7年に県営の小見発電所が設けられ、上流の常願寺川本川と称名川からの取水で発電が行われた。その称名川からの取水が常願寺川を渡る水路橋として千寿橋が架けられた。流線型のしまったプロポーションで設計されたスマートなデザインのタイドアーチ橋である。写真愛好家の撮影対象としても好評な橋である。



桜橋

さくらばし

所在地 富山市本町

分類 交通関係(道路橋)

竣工 1935年(昭和10)

構造 鋼アーチ橋

所有 富山県

履歴 登録有形文化財

日本の近代土木遺産2800選

概要 昭和3年からの富山都市計画事業の一環として、旧神通川の廃川地を活用する新河川・松川が開削された。桜橋はこの松川に架かる全長約16メートルの優美なアーチ橋である。道路の幅に合わせたため、長さより幅のほうが広く、川に対して斜めに架けられている。



笹津橋

ささづばし

所在地 富山市笹津

分類 交通関係(道路橋)

竣工 1941年(昭和16)

構造 鉄筋コンクリートアーチ橋

所有 国土交通省

履歴 登録有形文化財

日本の近代土木遺産2800選

概要 富山県と飛騨地方を結ぶ道路の整備の一環として、明治19年に初代の木造橋である笹津橋が県によって架けられた。四代目の橋は昭和16年に若き土木技手・高野務氏によって設計され、峡谷にマッチした美しいアーチ橋として建設された。現在は歩行者用の橋として活用されている。



山吹橋

やまぶきばし

所在地 富山市八尾町鏡町・八尾町高熊

分類 交通関係（道路橋）

竣工 1930年（昭和5）頃 昭和30年に移設

構造 吊橋

所有 富山市

履歴 日本の近代土木遺産2800選

概要 飛騨地方から富山平野に流れる井田川に架かり、鋼トラス主塔を持つ吊橋が山吹橋である。昭和5年頃に造られ、昭和30年に現在地に移設されたもので、現存する数少ない戦前の吊橋とされる。長さ78メートルで、おわら名歌にも詠まれている。現在は歩行者用の橋として使用されている。



眼鏡橋

めがねばし

所在地 富山市八尾町下新町

分類 交通関係（道路橋）

竣工 1915年（大正4）

構造 鉄筋コンクリートアーチ橋

所有 富山県

概要 富山平野の南部に位置し、おわら風の盆で広く名が知られる富山市八尾町の市街地に架かる小さなアーチ橋である。大正3年の8月に大洪水が同地区を襲い、市街を流れる別荘川の橋が流失した。翌年に本県初の永久橋としてこの眼鏡橋が架橋された。町並みに溶け込んだ穏やかな風情を醸し出している。



富岩運河

ふがろうんが

所在地 富岩運河：富山市湊入船町から西宮町・草島まで

中島閘門：富山市中島

牛島閘門：富山市牛島

分類 交通関係（運河）

竣工 富岩運河1935年（昭和10）

中島閘門1934年（昭和9）

牛島閘門1934年（昭和9）

構造 富岩運河：石積護岸、鋼矢板護岸

中島閘門・牛島閘門：石組み・鉄筋コンクリート造

所有 富山県

履歴 中島閘門：重要文化財

日本の近代土木遺産2800選

牛島閘門：登録有形文化財

日本の近代土木遺産2800選

概要 富岩運河は昭和初期の富山都市計画事業によって設けられた延長約5キロメートル水面の幅60～40メートルほどの運河である。そのほぼ中間の位置に中島閘門（重要文化財としての名称は富岩運河水閘施設）が設けられ、上流と下流の水位を調整し、船舶の運行を助けている。放水路、閘門操作室、中島橋とともに先人の英知を学ぶ施設として公開されている。牛島閘門は、富岩運河といたち川の水位調整のために設けられた小ぶりの閘門で、復元整備されたものである。これらの施設は富山県の近代化を支えた代表的な土木構造物であり、近年では県民の憩いの場として人気を呼んでいる。



富岩運河



中島閘門



中島閘門



牛島閘門

飛越線の駅舎と橋梁

ひえつせんのえきしゃときょうりょう

所在地 富山市 猪谷まで

分類 鉄道関係(駅舎、橋梁)

竣工 1927年(昭和2)～1934年(昭和9)

構造 駅舎:木造栈瓦葺 橋梁:鉄骨

所有 西日本旅客鉄道株式会社

履歴 新神通川橋梁:日本の近代土木遺産2800選
第一神通川橋梁:日本の近代土木遺産2800選
第二神通川橋梁:日本の近代土木遺産2800選
第二砂場橋梁:日本の近代土木遺産2800選

概要 飛越線(現、高山線)は北陸と東海地方を結ぶ物流の動脈として敷設され、昭和2年には富山と越中八尾の区間が、昭和9年には全線が開通した。千里駅は木造の下見板張建物で、栈瓦葺の切妻屋根となっている。七尾駅を移築した越中八尾駅は木造平屋建栈瓦葺の建物で屋根が寄棟となっている。縦に長い大きな窓や寄棟風の車寄せなど当時としてはモダンなデザインとなっている。猪谷駅は富山県で最南端の駅舎で、前二舎から3年遅れの昭和5年に開業した。木造栈瓦葺で切妻屋根、下見板張の建物である。越中八尾からは概ね神通川沿いに谷地形を縫いながら敷設されており、多くの鉄道橋が架けられている。新神通川橋梁はレンガ橋脚のトラス橋で長さは424メートルである。第一神通川橋梁はトラス橋で長さは324メートルである。第二神通川橋梁もトラス橋で長さ198メートルを測り、水面に映る上路トラスの風景が見事である。第二砂場橋梁はアーチ橋で長さ30メートルである。



千里駅



越中八尾駅



猪谷駅



第一神通川橋梁



新神通川橋梁



第二神通川橋梁



第二砂場橋梁



旧神岡馬車軌道

きゅうかみおかばしゃきどう

所在地 富山市猪谷

分類 鉄道関係(鉄道施設)

竣工 1923年(大正12)

構造 馬車軌道跡

所有 神岡鉱業株式会社

概要 高原川沿いの鉱山から産出された鉱物は古くから富山県側に搬出されていた。産物を運搬する専用の軌道は馬車軌道として大正2年から建設が始められ、大正12年に岐阜県の船津まで開通した。総延長は約38キロメートルであり、現在その軌道跡を高原川右岸の山腹などに垣間見ることができる。



千垣橋梁

ちがききょうりょう

所在地 立山町千垣

分類 鉄道関係(鉄道橋)

竣工 1937年(昭和12)

構造 アーチ橋

所有 富山地方鉄道株式会社

履歴 日本の近代土木遺産2800選

概要 大正中期から常願寺川の電源開発を行うため、建設資材運搬用の富山県営鉄道の建設が進められたが、昭和12年に常願寺川を跨ぐ千垣橋梁が架けられた。長さ117メートルの長大橋でしなやかなアーチ橋である。設計は橋梁工学で知られる富山県出身で当時、県職員であった小池啓吉である



旧東岩瀬駅

きゅうひがしいわせえき

所在地 富山市東岩瀬御蔵町

分類 鉄道関係(駅舎)

竣工 1924年(大正13)

構造 木造平屋建

所有 富山市

概要 大正後期に東岩瀬港と富山市を結ぶために敷設された富岩鉄道の駅舎で、後に国鉄に移管された。港湾の近代化とともに貨物・旅客でおおいに賑わった。小駅ながらも下見板張で大きな窓枠が廻らされた落ち着いた建物である。現在は観光拠点として再整備され、クリーム色の外観が往事を偲ばせている。



水橋駅

みずはしえき

所在地 富山市水橋伊勢屋

分類 鉄道関係(駅舎)

竣工 1908年(明治41)

構造 木造平屋建棧瓦葺

所有 西日本旅客鉄道株式会社

履歴 日本の近代土木遺産2800選

概要 北陸線は明治32年に米原から富山まで開通し、明治41年に富山と魚津間が開通した。駅舎は下見板張で大きな窓枠を眺え、細長い躯体と切妻屋根の旧国鉄駅舎の典型的な外観を持つ。北陸線の多くの駅舎が改築されている中で、本駅は開業当時の面影を今に伝えている。



上堀駅

かみほりえき

所在地 富山市堀

分類 鉄道関係(駅舎)

竣工 1921年(大正10)

構造 木造平屋建棧瓦葺

所有 富山地方鉄道株式会社

概要 富山県は大正時代に、常願寺川の豊富な水量を活用した水力発電と、暴れ川としての治水に取り組み、建設資材運搬用に富山県営鉄道が開設された。大正10年の南富山と上滝の間の開通にあわせて、本駅が設けられた。寄棟造りの小さな木造駅舎で、内部の待合室などには往時の面影をそのまま残している。



岩嶺寺駅

いわくらじえき

所在地 立山町岩嶺寺

分類 鉄道関係(駅舎)

竣工 1921年(大正10)

構造 木造二階建棧瓦葺

所有 富山地方鉄道株式会社

履歴 日本の近代土木遺産2800選

概要 常願寺川の水力発電と治水を目的とした建設資材運搬用の富山県営鉄道が大正10年に開通したが、4月の上滝駅に4箇月遅れて、8月に岩嶺寺駅が開設された。外観では屋根に神社を模した破風が据えられて特徴が出されており、内部の木製ベンチなどに往時の様子を残している。近年、映画「劔岳・点の記」のロケ地として活用された。



富山県庁舎

とやまけんちようしゃ

所在地 富山市新総曲輪

分類 公共建築物(官公庁)

竣工 1935年(昭和10)

構造 鉄筋コンクリート造

所有 富山県

概要 昭和前期の鉄筋コンクリート造四階建の建物で、国会議事堂にも携わった大蔵省工務課長の大熊喜邦の設計である。富山県の昭和前期を代表する近代建築と評価されている。神通川の廃川地の区画整理事業という富山都市計画事業のシンボルとなる建築物であり、シンプルながら洗練された外観デザインとなっている。



旧呉羽紡績呉羽工場

きゅうくれはぼうせきくれはこうじょう

所在地 富山市呉羽町

分類 産業建築物(工場)

竣工 1929年(昭和4)

構造 鉄筋コンクリート造

所有 富山市

概要 富山平野のほぼ中央部で列車交通の便もよい呉羽地区で、昭和初期に建設された大きな紡績工場である。鋸屋根の棟が連なり、広大な敷地に事務所棟や講堂などの建物も建てられていた。旧呉羽紡績株式会社は東洋紡績へ変遷し、さらに現在は富山市舞台芸術パークとして活用されている。外観に往事を偲ぶことはできないが、鋸屋根の空間をそのまま活用した練習室などの室内となっている。

46 電気ビル

でんきビル

所在地 富山市桜橋通り
分類 産業建築物（事務所）
竣工 1936年（昭和11）
構造 鉄筋コンクリート造
所有 富山電気ビルディング株式会社

概要 昭和前期に、本県初の大規模な本格的なビルディングとして建てられた外壁が煉瓦化粧の建物である。建物の腰周りは石貼り、屋根はろく屋根の当時としては実に近代的な構造物であった。富山県の産業・経済における近代化のシンボルのひとつとして、多くの県民に親しまれている。



47 富山第一銀行本店

とやまだいいちぎんこうほんてん

所在地 富山市総曲輪
分類 産業建築物（銀行）
竣工 1951年（昭和26）
構造 鉄筋コンクリート造
所有 株式会社富山第一銀行

概要 県都富山市のほぼ中央で、戦後の復興期に建てられたヨーロッパの神殿を彷彿させるデザインの建物である。石材などで質の良い材料と技術が駆使され、また使用された石材量は北陸随一であったとされる。外観は東京の第一銀行本店を模して設計された都会的な感覚の建物である。

48 旧ハケ山遊園

きゅうはつかやまゆうえん

所在地 富山市ハケ山
分類 その他（公園）
竣工 1929年（昭和4）
所有 富山市

概要 富山平野の中央に南北に横たわる呉羽山丘陵の北端に昭和初期に建設された公園跡である。実業家・石原正太郎は、隣接して越中鉄道が走っていたことから公園の設置を発想し、スキー場や運動広場を造成した。花見時や紅葉狩り時には多くの人々が訪れたと言われる。



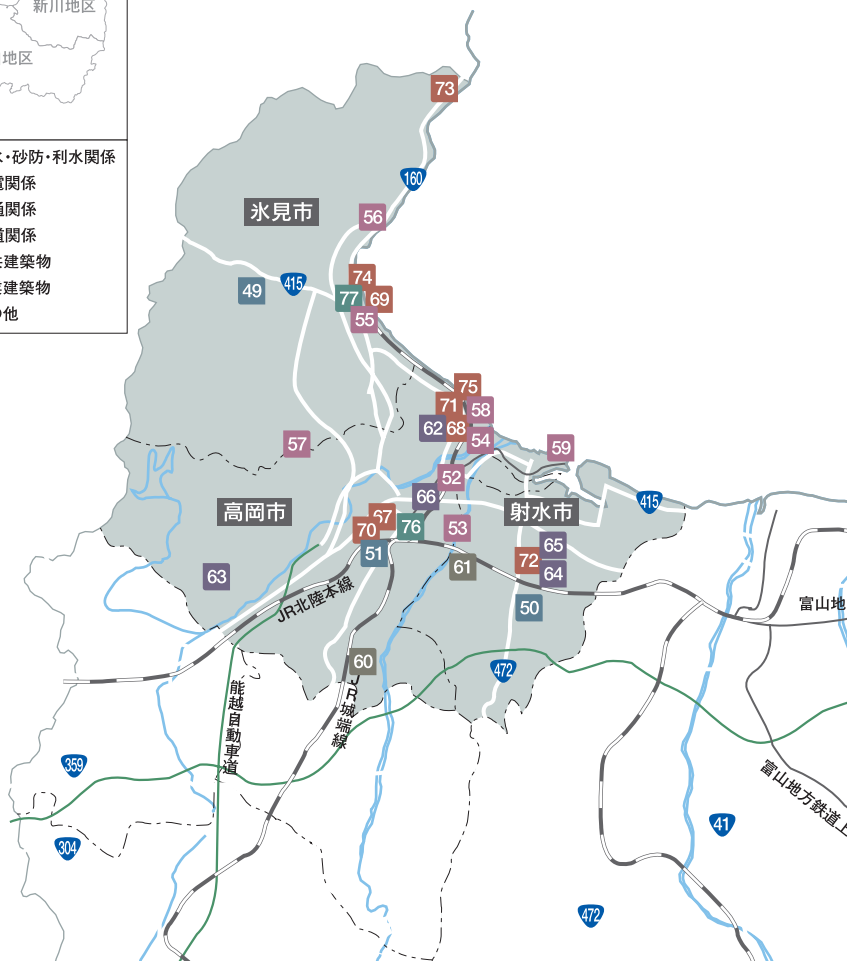
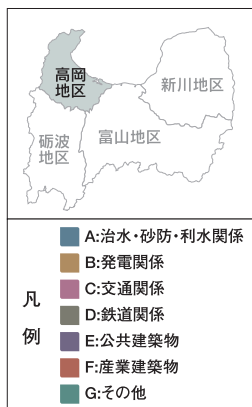
ちよつと コラム

「砂防の父」赤木正雄（1887～1972）

（初代の立山砂防事務所長）
 明治20年（1887）、兵庫県豊岡市に生まれる。
 大正3年（1914）東京帝大農科（林学科）卒。
 内務省大阪土木出張所、農商務省山林局に勤める傍ら京都帝大講師、オーストリアに留学。
 大正14年（1925）内務省に復命し、翌年に初代の立山砂防事務所長に就任。
 富山県から引き継いだ白岩砂防ダムを設計するなど、昭和4年（1929）まで常願寺川砂防に尽くした。

高岡地区

高岡市、射水市、氷見市



昭和用水

しょうわようすい

所在地 氷見市上田
分類 治水・砂防・利水（灌漑）
竣工 1931年（昭和6）
構造 コンクリート造
所有 氷見市土地改良区

概要 氷見市内を東流し富山湾に注ぐ上庄川の中流域は、江戸時代末期に大野用水が開削されて田畑が潤された。昭和初期には県の指導のもと、確実な用水確保と堅固な施設とするためにコンクリート水門の建設が計画され、昭和6年に竣工した。同時に名称も昭和用水と改称された。



水道水源地ベンチュリーメーター台（モニュメント）

すいどうすいげんちべんちゅりーめーたーだい

所在地 射水市日の宮
分類 治水・砂防・利水（上下水道）
構造 コンクリート造
所有 射水市

概要 大正時代に始められた小杉町の上水道の施設のひとつで、昭和8年のベンチュリーメーター台（モニュメント）の上部に口径250ミリメートルの管が取り付けられ、使用水の変化と一日の送水量が自動的に記録されるようになっていた。外観は八角形柱で下部がコンクリート、上部は花崗岩で造られている。





51 旧配水塔・第三源井上屋・水源地水槽 (清水町配水塔資料館)

きゅうはいすいと・だいさんげんせいいうわ・すいげんちすいそ

所在地 高岡市清水町
分類 治水・砂防・利水(上下水道)
竣工 1931年(昭和6)
構造 鉄筋コンクリート造
所有 高岡市
履歴 登録有形文化財
 日本の近代土木遺産2800選

概要 昭和初期に完成した高岡市の水道施設である。旧配水塔は当時の最新科学の粋を集めて建設された水源施設のシンボリック存在であり、上部に銅板張りの水槽が乗っている。第三源井上屋は地下水をくみ上げる源井の上屋で、レンガの外壁を持つ。水源地水槽は長さ30メートル、幅22メートルの大規模な半地下式の構造物である。平成5年から水道の資料館として公開されている。



旧配水塔



旧配水塔



第三源井上屋



水源地水槽



52 対港橋

たいこうばし

所在地 高岡市能町・米島
分類 交通関係(道路橋)
竣工 1943年(昭和18)
構造 鉄筋コンクリートアーチ橋
所有 富山県
履歴 日本の近代土木遺産2800選

概要 伏木港に対面する国道415号線の跨線橋として、昭和18年に掛けられた連続アーチ橋である。戦前で最長の鉄筋コンクリートアーチ橋とされ、長さは495メートルを測る。JR米見線がこの橋をくぐり、加越能鉄道万葉線が並行している。国内では極めて珍しいコンクリートブロックのアーチ橋とされる。



53 高岡大橋

たかおかおおはし

所在地 高岡市三女子 射水市大島北野
分類 交通関係(道路橋)
竣工 1937年(昭和12)
構造 トラス+鋼鈑桁橋
所有 富山県
履歴 日本の近代土木遺産2800選

概要 砺波平野から富山湾に注ぐ大河川・庄川に架かる鋼トラス橋で、県道富山・高岡線の一部である。長さは約430メートル、幅は7.5メートルの長大橋である。橋の上部に、石川島造船所製の曲弦のワーレントラスが5連設けられ、大きな河川と広い平野にマッチした落ち着いた風情となっている。





新庄川橋

しんしょうがわばし

所在地 射水市庄西町・庄川本町

分類 交通関係(道路橋)

竣工 1938年(昭和13)

構造 鉄筋コンクリート桁橋

所有 富山県

履歴 日本の近代土木遺産2800選

概要 砺波平野を北流し富山湾に注ぐ庄川の河口に架かる長大橋で、国道415号線の一部である。長さは約420メートルで、ヤジロベエのように支点で支えながら全体のバランスをとるカンティレバー方式の鉄筋コンクリート桁橋(戦前で最長)である。ワーレントラスの新橋と万葉線が並行して架けられている。



朝日橋

あさひばし

所在地 氷見市本町・朝日本町

分類 交通関係(道路橋)

竣工 1934年(昭和9)

構造 コンクリート桁橋

所有 氷見市

概要 氷見市内を流れ富山湾に注ぐ湊川に架けられた、氷見市内で現存する最古のコンクリート製桁橋である。全長約20メートルであるが、高欄は24本のコンクリート角柱で造られ、全体的に重厚な雰囲気が出出されている。かつては橋近くまで漁船が渡航し、港町の雰囲気が醸し出されていたという。



八幡隧道

はちまんずいどう

所在地 氷見市藪田、阿尾

分類 交通関係(隧道)

竣工 明治時代

所有 氷見市

概要 氷見市から能登半島を北上する富山湾沿いの道路は明治時代に順次整備が進められた。阿尾地区から藪田地区までの区間には、約100メートルの素掘りのトンネルが設けられた。道路事情の更新によって、付近には官公吏旅館等が建設された。近年になってコンクリートで強固に補強されている。



つづら隧道

つづらずいどう

所在地 氷見市仏生寺、高岡市頭川

分類 交通関係(隧道)

竣工 1932年(昭和7)

所有 氷見市

概要 氷見市の山間部にある仏生寺地区と高岡市を結ぶため、明治後期に西山丘陵を跨ぐ道路が建設された。掘削された素掘りトンネルにはつづら隧道と命名された。昭和7年には長さ98メートルのコンクリート製のトンネルとして改良された。



58 内川護岸物揚場

うちかわゑがんものあげば

所在地 射水市庄西町
分類 交通関係(運河)
竣工 大正末頃
構造 石積護岸
所有 富山県

概要 富山湾の小矢部川河口付近は、江戸時代からの北前船の港として栄えた。内川は大正後期に始められた伏木港の第二期拡張工事で、舟運を目的として、幅25メートルの運河に改修された。玉石を利用した護岸部分が往事を偲ばせている。



財団法人伏木富山港・海王丸財団提供



59 帆船海王丸

はんせんかいおうまる

所在地 射水市海王町
分類 交通関係(船舶)
竣工 1930年(昭和5)
構造 帆船
所有 財団法人伏木富山港・海王丸財団

概要 昭和初期に建造された大型練習帆船で「海の貴婦人」とも称せられる優美な船型を有している。全長97メートル、全幅13メートルの大きさでメインマストは46メートルの高さである。平成元年の退役後、富山湾に面する海王丸パークで係留されて一般に公開されている。



60 戸出駅

といでえき

所在地 高岡市戸出町
分類 鉄道関係(駅舎)
竣工 1896年(明治29年)
構造 木造平屋建棧瓦葺
所有 西日本旅客鉄道株式会社

概要 旧中越鉄道の開設は、米をはじめとする農産物や絹・麻・木綿の繊維産業の一層の発展に貢献し、また北海道からの海産物の移入にも機能を果たした。大正9年には国有鉄道中越線となり、昭和17年には城端線となった。JR戸出駅は木造平屋建の寄棟造りの木造建物で、増築はなされているものの躯体は当時のままである。



61 越中大門駅

えっちゅうだいもんえき

所在地 射水市北野
分類 鉄道関係(駅舎)
竣工 1923年(大正12)
構造 木造二階建棧瓦葺
所有 西日本旅客鉄道株式会社

概要 北陸線は明治32年に米原から富山まで開通したが、本駅は開通24年後の高岡と小杉駅間の新駅として開設した。かつては日本電工北陸工場や東洋紡績庄川工場へ延びる貨物専用線も設けられていた。駅舎は大きな窓枠、細長い躯体そして切妻屋根という旧国鉄駅舎の典型的な外観となっている。



旧伏木測候所

きゅうふしきそっこうじょ

所在地 高岡市伏木
分類 公共建築物(官公庁)
竣工 1909年(明治42)
構造 木造平屋建棧瓦葺
所有 高岡市
履歴 登録有形文化財

概要 藤井能三は明治時代前期に大きな北前船廻船問屋を営んでいたが、伏木港の近代化を進め、私設の測候所も明治16年に設けた。この建物はその後、県に移管され、明治後期に新たに建てられた建物で、外観は下見板張の洋風をイメージし、大きな窓の配置など簡素ながらも落ち着いた意匠となっている。



旧小杉町役場

きゅうこすぎまちやくば

所在地 射水市戸破
分類 公共建築物(官公庁)
竣工 1934年(昭和9)
構造 木造二階建棧瓦葺
所有 射水市

概要 昭和初期に建てられた旧小杉町の役場の建物である。建物の内部壁面は白壁で天井には部分的に鍍絵の落ち着いた装飾が施されている。外光を取り入れるための大きな窓枠や屋根に設けられた時報用サイレンの吹鳴台などが外観の特徴である。現在は竹内源造記念館として、鍍絵の資料などが展示されている。



旧福岡町役場

きゅうふくおかまちやくば

所在地 高岡市福岡町下向田
分類 公共建築物(官公庁)
竣工 1924年(大正13)
構造 鉄筋コンクリート造
所有 高岡市
履歴 登録有形文化財

概要 大正後期に旧福岡町役場として建てられた二階建ての洋風建築である。外観は石造洋館のイメージで、正面はロマネスク風石柱飾の意匠で、上部には「フ」をデザインした町章が刻まれている。現在は高岡市福岡歴史民俗資料館として移築保存されて、公開されている。



旧小杉郵便局

きゅうこすぎゆうびんきょく

所在地 射水市戸破
分類 公共建築物(官公庁)
竣工 1924年(大正13)
構造 コンクリート造
所有 個人

概要 旧小杉町の集配取扱三等郵便局の建物で、大正後期に当時の小杉郵便局長であった須藤利作氏が自費で建設した局舎である。外部は土壁にコンクリートが貼り付けられて凹凸がデザインされ、クリーム色に仕上げられている。鉄製の防火扉による耐火構造が意識されている。正面屋根のマークのデザインが興味を引く。



高岡工芸高校造形実習室

たかおかこうげいこうこうぞうけいじっしゅうしつ

所在地 高岡市中川
分類 公共建築物(学校)
竣工 1921年(大正10)
構造 木骨レンガ造
所有 富山県

概要 工芸都市としての歴史を持つ高岡市に設置された富山県立高岡工芸高校に、旧窯業科の実習施設として、大正中期に建てられた赤レンガ造りの建物である。当初は応用科学科の薬品倉庫として建てられ、その後、窯業科の窯場として使用された。シンプルながら外観の細部に工夫した意匠が見られる。



旧南部铸造所キューポラ及び煙突

きゅうなんぶちゅうぞうじょきゅぽらおよびえんとつ

所在地 高岡市金屋本町
分類 産業建築物(作業場)
竣工 1924年(大正13)
構造 キューポラ:鉄製 煙突:レンガ造
所有 株式会社ノースランド
履歴 登録有形文化財

概要 キューポラは高岡鋳物発祥の地として知られる金屋町の一画に設けられた約3メートルの大きさの製鉄炉である。熱効率を高めるよう石造煙道内には送風鉄管が配置されている。煙突は炉から約7メートル離れて建てられており、イギリス積みのレンガ造である。高岡鋳物の近代化を物語るシンボルである。



旧南島商行本店

きゅうみなみしましょうこうほんてん

所在地 射水市庄西町
分類 産業建築物(事務所)
竣工 1915年(大正4)
構造 木骨レンガ張
所有 株式会社牧田組
履歴 登録有形文化財

概要 富山湾に注ぐ庄川の河口近くで大正前期に建てられたオフィスビルである。木造の躯体に褐色の煉瓦で化粧され、腰や隅柱に花崗岩が用いられた斬新なデザインを有する。日本海での回船運漕業を発展させた南島家が建てたもので、海運業の近代化を知る上でも貴重な建物である。現在は牧田組の社屋として活用されている。



本川家住宅

ほんかわけじゅうたく

所在地 氷見市比美町
分類 産業建築物(事務所)
竣工 1941年(昭和16)
構造 木造二階建棧瓦葺
所有 個人

概要 氷見市街のほぼ中央を流れる湊川に沿って建てられている木造二階建の商家建築である。昭和前期に氷見大火の後に建てられ、間口7.7間、奥行12間の豪放な和風建築となっている。北洋漁業にも進出し、水産業の発展を支えた居宅兼事務所であった建築物である。



70 旧高岡共立銀行本店

きゅうたかおかきょうりつぎんこうほんてん

所在地 高岡市守山町
分類 産業建築物（銀行）
竣工 1915年（大正4）
構造 レンガ造銅版葺
所有 株式会社富山銀行

概要 東京駅の設計者として知られる辰野金吾が設計に関わり、清水組が施工して建てられた赤レンガ造りの風格のある建物である。旧高岡共立銀行本店（現、富山銀行本店）として大正時代に建てられた。正面両側に尖塔が設けられ、正面屋根にゲブルが据え付けられている。内部には、大理石のカウンターやステンドグラスの窓が備えられている。



72 旧小杉貯金銀行本店

きゅうこすぎちよきんぎんこうほんてん

所在地 射水市戸破
分類 産業建築物（銀行）
竣工 1911年（明治44）
構造 土蔵造
所有 射水市
履歴 登録有形文化財

概要 射水市小杉地区の旧北陸道沿いに、地域の有力者の共同出資によって創業し建設された銀行の本館である。黒塗りの漆喰壁の土蔵で、窓には金属製の防火扉が取り付けられている。内部の天井や回廊の手すりなどに工夫された意匠が施されている。現在は、射水市小杉展示館として公開されている。



71 旧伏木銀行

きゅうふしきぎんこう

所在地 高岡市伏木湊町
分類 産業建築物（銀行）
竣工 1910年（明治43）
構造 土蔵造
所有 高岡商工会議所伏木支所
履歴 登録有形文化財

概要 土蔵造りの町屋のデザインを基調として、タイルの壁、玄関ポーチの柱、一階と二階の上げ下げ窓、軒の蛇腹に加え、内部の天井と階段に洋風の意匠を取り入れた建物である。明治時代に建てられた重厚な建物で、港町の土蔵造り建物の景観に溶け込んでいる。



73 網主倉庫

あみぬしそうこ

所在地 氷見市中波
分類 産業建築物（倉庫）
竣工 1908年（明治41）
構造 木造切妻造棧瓦葺
所有 個人

概要 能登半島の富山湾沿いを走る灘浦街道に建てられた定置網主の大きな倉庫である。明治後期に氷見地方はブリ漁の豊漁が続き、ブリを獲る大敷網の保管などのために設けられた。二階の大きな五つの窓、一階の網の出し口など、独特の工夫が見られる。「彦右衛門の倉」として親しまれている。



旧醤油醸造石蔵

きゅうしょうゆじょうぞういしくら

所在地 氷見市北大町
分類 産業建築物(醸造)
竣工 1887年(明治20)
構造 石造
所有 個人

概要 富山湾へ流れる上庄川の河口付近に建てられている石蔵である。味噌や醤油を醸造する原料の大豆や大麦の保管庫として明治中期に建てられた。外観は赤い銅板張で、切妻屋根二階建である。現在は市内の芸術進行のためのNPOが借り受けて、活動の拠点として活用されている。



高岡古城公園

たかおかこじょうこうえん

所在地 高岡市定塚町
分類 その他(公園)
竣工 1875年(明治8)
所有 高岡市

概要 江戸時代初期の慶長14年に築城された高岡城は、明治6年の公園条例に基づいて国内でも早い時期に指定された公園である。当時の園内には射水郡役所や裁判所などが建てられ、大正時代にはテニスコートなども設けられた。総面積の約3割は堀を活かした水濠であり、平成元年には都市公園100選にも選定されている。



伏木湊町の建物群

ふしきみなまちのなてものぐん

所在地 高岡市伏木
分類 産業建築物(その他)
竣工 (主に明治時代)
構造 土蔵造など
所有 個人

概要 和船から汽船へ変化していった伏木港は、港湾の整備、灯台・気象台の設置などで近代化が進められた。通りには洋風の事務所棟、店舗の看板建築などが数多く軒を並べた。一方では伝統的な土蔵造り建物も存在し、日本海の玄関口としての活気のある家並みを形成し、その一部を現在でも垣間見ることができる。



朝日山公園

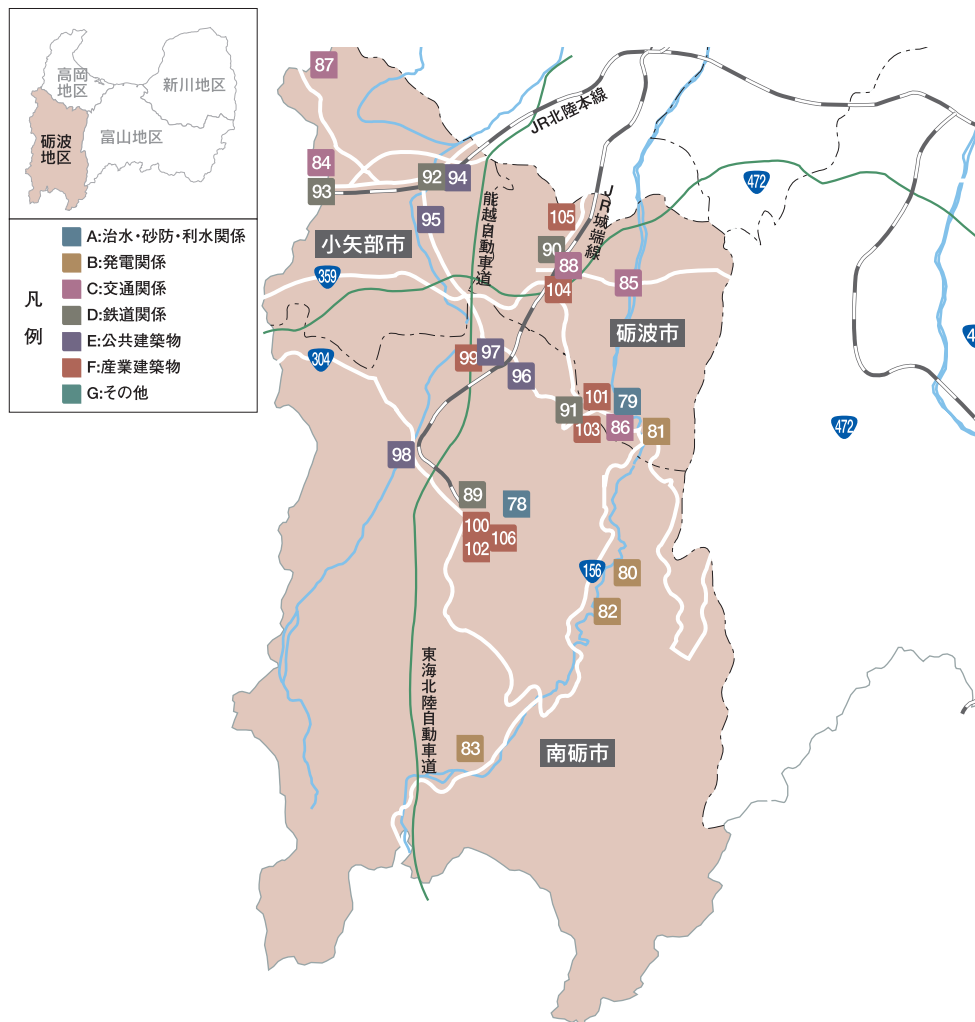
あさひやまこうえん

所在地 氷見市朝日山
分類 その他(公園)
竣工 1909年(明治42)
所有 氷見市

概要 明治42年に皇太子(後の大正天皇)の北陸巡啓を記念して開園された公園で、約15,000平米の広さを誇る。氷見市街地の西側にある標高42メートルの朝日山にあり、春には県内有数の桜の名所として賑わう。展望台からは、富山湾の海岸線、能登半島や立山の峰々を眺望することができる。

砺波地区

砺波市、小矢部市、南砺市



赤祖父溜池堰堤

あかそふためいけえんてい

所在地 南砺市川上中

分類 治水・砂防・利水(灌漑)

竣工 1944年(昭和19)

構造 アースダム

所有 庄川上流用水土地改良区

概要 砺波平野南部の約550ヘクタールの田畑を潤すため昭和7年に開始された赤祖父溜池は、県営工事完成の翌年の昭和20年から通水が始まった。さらに分水や導水の施設工事が進められ、昭和25年に一連の施設が整備された。堤高約32メートル、長さ約200メートルのアースダムである。



庄川合口堰堤

しょうがわごうくちえんてい

所在地 砺波市金屋

分類 治水・砂防・利水関係(治水ダム)

竣工 1939年(昭和14)

構造 鉄筋コンクリート重力式ダム

所有 富山県

履歴 登録有形文化財、日本の近代土木遺産2800選

概要 砺波平野を北流する大河川・庄川に点在していた農業用水の取り入れ口を集約した灌漑と発電用の堰堤である。10門のラジアルゲート(弧状の扉が上下して開閉)を付け、魚道も併設されている。国内屈指の大扇状地を潤し、穀倉地帯の近代化に大きな役割を果たした構造物である。





大牧発電所

おおまきはつでんしよ

所在地 南砺市利賀村大牧
分類 発電所関係(発電施設)
竣工 1944年(昭和19)
構造 鉄筋コンクリート造
所有 関西電力株式会社

概要 砺波平野を北流する大河川・庄川の豊富な水量を活用した昭和前期の発電所である。1943年(昭和18)に竣工した上流の利賀ダムから水が供給されている。庄川水系の電源開発史を語る上で重要な発電所であり、また、緑豊かな大河川の谷間に溶け込んで建設されている。



関西電力株式会社提供



小牧ダム・発電所

こまきだむ・はつでんしよ

所在地 砺波市小牧
分類 発電所関係(発電施設)
竣工 1930年(昭和5)
構造 ダム:コンクリート重力式ハイダム
発電所:鉄筋コンクリート造
所有 関西電力株式会社
履歴 ダム:登録有形文化財

土木学会選奨土木遺産
日本の近代土木遺産2800選
発電所:日本の近代土木遺産2800選

概要 小牧ダムは、中央部に弧状のゲートが付いた越流部、右岸側にエレベーター式魚道、左岸側に運材設備を備える。浅野総一郎の庄川水力電気株式会社が計画し、庄川水力発電株式会社(現、関西電力株式会社)が竣工した。竣工時は東洋一の大きさを誇るダムであった。発電所は鉄筋コンクリート造のろく屋根建物で、周辺の高い山並みと調和したデザインとなっている。



祖山ダム・発電所

そやまだむ・はつでんしよ

所在地 南砺市祖山
分類 発電所関係(発電施設)
竣工 1930年(昭和5)
構造 ダム:玉石コンクリート重力式ダム
発電所:鉄筋コンクリート造

所有 関西電力株式会社

履歴 日本の近代土木遺産2800選

概要 小牧ダムは、砺波平野を流れる庄川の上流に建設された発電用ダムで、河川の屈曲と高い尾根という自然の地形を巧みに利用して遮水した独特のダムである。祖山ダムは周辺の高い山並みと調和するようデザインされている。大同電力株式会社が建設し、昭和電力株式会社を経て関西電力株式会社へ移管された。



小原ダム

おばらだむ

所在地 南砺市小原
分類 発電所関係(発電施設)
竣工 1942年(昭和17)
構造 コンクリート重力式ダム
所有 関西電力株式会社

概要 五箇山を北流する庄川の上流に建設された発電用ダムで、当時の村民が地域の発展のために、昭和電力株式会社などに働きかけて建設された施設である。ラジアルゲート(弧状の扉が上下して開閉)が並び、3本の放流管を装備している。取水口と発電所は右岸側のダムの脇に建設されている。





84 旧国道天田峠石積みの擁壁

きゅうこくどうあまたうげいしづみのようへき

所在地 小矢部市安楽寺

分類 交通関係(道路)

竣工 1934年(昭和9)

構造 石積擁壁

所有 富山県

概要 富山県と石川県の県境に横たわる宝達丘陵の倶利伽羅峠にあった古道は明治11年に新道が開削された。天田峠を越える幅二間の道路で、延長約8キロメートルが建設された。昭和に入って車などの往来が多くなったことから、改修工事がなされ、石積みの擁壁に工事の様子を窺い知ることができる。



85 太田橋

おおたばし

所在地 砺波市太田・安川

分類 交通関係(道路橋)

竣工 1938年(昭和13)

構造 鉄筋コンクリート桁橋

所有 富山県

履歴 日本の近代土木遺産2800選

概要 飛騨から富山湾に注ぐ庄川の中流域に架けられた長大橋である。国道359号線の一部として、砺波平野と庄川右岸の集落を結ぶ基幹橋となっている。約440メートルの橋は戦前の鉄筋コンクリート連続桁橋としては最長の長さを誇る。高欄の連続する尖頭アーチのデザインが独特である。



86 金屋洞門

かなやどうもん

所在地 砺波市金屋

分類 交通関係(隧道)

竣工 1943年(昭和18)

概要 飛騨山地から富山湾に北流する庄川は、砺波市庄川町金屋で砺波平野に入る。大正時代の道路整備の一環として、旧県道青島利賀線も改良がなされた。庄川の断崖に接する通称小牧峠付近では隧道建設が計画され、約100メートルの長さの隧道が完成した。現在は新トンネルの建設で、廃道となっている。



87 宮島隧道

みやじまずいどう

所在地 小矢部市宮島

分類 交通関係(隧道)

竣工 (明治末頃)

所有 富山県

概要 富山県と石川県の間には宝達丘陵が横たわり、古くから交通の難所であった。相互の往来のために、明治末期に設けられた隧道のひとつがこの宮島隧道である。昭和前期頃までは盛んに利用されていたが、昭和40年代に新たな国道が整備されてからはほとんど使用されていない。



消防自動車チャンドラ号

しょうぼうじどうしゃちゃんどらごう

所在地 砺波市花園町
分類 交通関係(自動車)
竣工 1928年(昭和3)
所有 砺波市

概要 砺波市の旧出町消防組が昭和3年に購入したアメリカ製の消防自動車である。当時ではガソリン車そのものが珍しく、評判を呼んだ。地区の火災ばかりでなく、新湊、高岡市、氷見市などの大火の際にも出動し、鎮火の役割を果たした。現在は、砺波市チューリップ公園で公開展示されている。



中越弁慶号

ちゅうえつべんけいごう

所在地 砺波市花園町
分類 鉄道関係(駅舎)
竣工 1896年(明治29年)
構造 蒸気機関車
所有 砺波市

概要 旧中越鉄道の開設により、米をはじめとする農産物の流通は発展し、北海道からの海産物の移入にも機能を果たした。砺波市チューリップ公園内で保存されている中越弁慶号はイギリスのナミスミ・ウィルソン株式会社製の機関車で、中越線での活躍により砺波地方の近代化に大きな貢献を果たした。



城端駅

じょうはなえき

所在地 南砺市是安
分類 鉄道関係(駅舎)
竣工 1897年(明治30)
構造 木造平屋建棧瓦葺
所有 西日本旅客鉄道株式会社

概要 砺波平野の物流の活性化を目的として敷設された旧中越鉄道は明治30年にまず黒田(高岡市)と福野の間が開通し、同年の10月に終点の城端まで開通した。JR城端駅舎は木造平屋建の寄棟造りで、開設時のままでの姿で現在も利用されている。



旧井波駅舎

きゅういなみえきしゃ

所在地 南砺市北川
分類 鉄道関係(駅舎)
竣工 1934年(昭和9)
構造 木造平屋建棧瓦葺
所有 南砺市

履歴 登録有形文化財 日本の近代土木遺産2800選
概要 砺波平野の東西を結ぶ加越線は小矢部市石動と旧庄川町青島の間を結んで、大正4年に開業した。加越鉄道は富山地方鉄道をたて昭和25年に加越能鉄道となり昭和47年に廃線となった。本建物は入母屋屋根の中央に宝形屋根を乗せた寺院風の駅舎であり、現在は物産展示館として活用されている。



92 北陸線小矢部川橋梁

ほくりせんおやべがわきょうりょう

所在地 小矢部市今石動・東福町

分類 鉄道関係（鉄道橋）

竣工 1898年（明治31）

構造 鋼板桁橋

所有 西日本旅客鉄道株式会社

概要 北陸線の高岡までの開通は明治31年であり、同年の10月22日に行われた機関車の試験運転では、この小矢部川橋梁の重量試験と安全確認もなされ、関係者が歓声をあげた様子が記録されている。住民には小矢部川鉄橋と呼ばれ、現在は上り線として使用されている。



93 北陸線旧クリカラトンネル

ほくりくどうきゅうりからとんねる

所在地 小矢部市安楽寺

分類 鉄道関係（隧道）

竣工 1898年（明治31）

構造 鉄筋コンクリート造

所有 国土交通省

概要 北陸線の高岡までの開通は明治31年であるが、本トンネルは石川県との県境に横たわる倶利伽羅峠に設けられた鉄道用のトンネルであり、鉄道輸送による本県の近代化に貢献した施設である。当時は1000分の20の急勾配で機関車2両で牽引したとされる。昭和37年の複線化に伴い旧建設省に譲渡され、国道8号線用のトンネルとして拡張工事が行われた。



94 旧宮島村役場

きゅうみやじまむらやくば

所在地 小矢部市芹川

分類 公共建築物（官公庁）

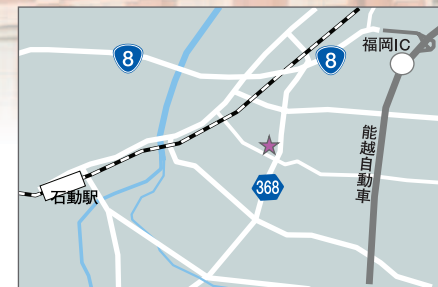
竣工 1926年（大正15）

構造 木造二階建棧瓦葺

所有 個人

履歴 登録有形文化財

概要 石川県境に近い旧宮島村の村役場として大正末期に建設された建物である。外観は下見板張の洋風建築で、上げ下げ窓、正面玄関ポーチの装飾屋根、二階上部の半円形のペディメントなどハイカラで個性的なデザインとなっている。現在は個人の住宅兼アトリエとして活用されている。



95 旧松沢小学校

きゅうまつざわしょうがっこう

所在地 小矢部市鷺島

分類 公共建築物（学校）

竣工 1911年（明治44）

構造 木造二階建棧瓦葺

所有 会社法人

概要 小矢部市の田園部にある旧松沢小学校の建物である。外観は、二階建て下見板張で、玄関ポーチの二本の柱で支えられた切妻屋根など典型的な学校建築となっている。現在は会社法人の所有となり、本館は事務所として、大正時代の体育館は作業所として活用されている。



96 福野高校蔵浄閣

ふくのこうこうがんじょうかく

所在地 南砺市苗島
分類 公共建築物(学校)
竣工 1903年(明治36)
構造 木造二階建棧瓦葺
所有 富山県
履歴 重要文化財

概要 砺波平野のほぼ中央部にある明治27年創立の旧富山県立農学校の本館である。現在の建物は明治後期に地元の名工・藤井助之丞の設計・施工であり、簡素ながら充実したデザインで、県内では数少ない明治の洋風建築である。昭和42年に曳屋移築され、農業資料の展示施設等として公開されている。



98 旧高宮医院

きゅうたかみやいいん

所在地 南砺市高宮
分類 公共建築物(病院)
竣工 1985年(明治18)
構造 木造二階建棧瓦葺
所有 南砺市

概要 砺波平野の南西に位置する福光地区の市街地で明治中期に建てられた洋風の建物である。医師・大井精氏が私費で建設し、昭和7年に西勝医院へと引き継がれ、現在は市の福祉施設「光龍館」として活用されている。コロニアルスタイルとされ正面ポーチや破風などの意匠が見所である。



97 旧授眼蔵図書館

きゅうじゅがんぞうとしょかん

所在地 南砺市福野上町
分類 公共建築物(図書館)
竣工 1919年(大正8)
構造 木造平屋建棧瓦葺
所有 宗教法人

概要 旧福野町出身で東京帝大在学中の五島(吉田)鉄郎の処女作であり、吉田は後に東京中央郵便局などの設計で建築史に大きな足跡を残している。建物は軒高の高い木造平屋建で、寄棟の大屋根は軒の出がたいへん深く、伸びやかに反っている。棟の両端には鴟尾が向かい合っている。西方寺の境内に図書館として建てられたもので、文化サロンとしても町民に活用された。



99 旧富山紡績工場

きゅうとやまぼうせきこうじょう

所在地 南砺市福野横町
分類 産業建築物(工場)
竣工 1921年(大正10)
構造 木造棧瓦葺
所有 株式会社ファブリカトヤマ

概要 鋸屋根の紡績工場で、外壁は赤煉瓦で化粧され、建設時にはハイカラな近代的な建物であった。砺波地方は古くから繊維産業で栄え、工場が所在する福野地区は繊維産業の中心として栄えた。富山紡績富山工場として建設され、呉羽紡績福野工場から新しい富山紡績株式会社へ、現在は株式会社ファブリカトヤマとなっている。

100 西川産業

にしかわさんぎょう

所在地 南砺市城端

分類 産業建築物(工場)

竣工 1936年(昭和11)

構造 木造平屋建棧瓦葺

所有 西川産業株式会社

概要 砺波平野の南端の河岸段丘に位置する城端地区は門前町として成立したが、江戸時代には五箇山の養蚕を基として絹織物が主要な産業として根付いた。明治時代になると近代的な織物工場がいくつも造られ始めた。この工場は鋸屋根形式の典型的な工場であり、城端町の歴史的景観のひとつとなっている。



102 城端繊維組合事務棟

じょうはせんいくみあいじむどう

所在地 南砺市城端町大工町

分類 産業建築物(事務所)

竣工 1928年(昭和3)

構造 木骨モルタル造

所有 城端織物工業協同組合

履歴 登録有形文化財

概要 砺波平野の南側に位置する城端地区は江戸時代から絹織物産業が栄え、生産や販売に間係する建物が多く残されている。城端繊維組合事務棟は、組合事務や出荷のための検査などを目的として建てられた建物である。木造の総二階建て、木骨モルタル・タイル貼という都会的な外観となっている。



101 木村産業事務所

きむらさんぎょうじむしょ

所在地 砺波市庄川町金屋

分類 産業建築物(事務所)

竣工 1933年(昭和8)

構造 鉄筋コンクリート造

所有 木村産業株式会社

概要 庄川では昭和初期に多くのダムや発電所が設けられ電源開発が進められたが、砺波市金屋地区は建設工事用の資材の搬入などで栄え、木村産業では鉄筋コンクリート三階建ての社屋が建設された。デザインでは漆喰細工と多彩なタイルが多く用いられている。



103 旧富山紡績井波工場

きゅうとやまぼうせきいなみこうじょう

所在地 南砺市山見

分類 産業建築物(事務所)

竣工 1931年(昭和6)

構造 木造棧瓦葺

所有 東洋紡績株式会社井波工場

概要 イギリスの中世をイメージさせるデザインで建てられたハイカラな木造建築物である。富山紡績井波工場として創設され、現在は東洋紡績井波工場として、砺波平野のみならず本県での紡績産業が近代において大きく発展したことを象徴する施設である。

104 旧中越銀行本店 きゅうちゅうえつぎんこうほんてん

所在地 砺波市花園町

分類 産業建築物（銀行）

竣工 1909年（明治42）

構造 土蔵造

所有 砺波市

概要 砺波平野の中央部の出町地区で大地主や富商によって設立された中越銀行の本店として明治後期に建てられた。もとは黒漆喰壁であったが現在は銅版葺きのタイル貼化粧となっている。内部の天井には「金唐草紙」が張られ、見ごたえのある装飾となっている。砺波郷土資料館として公開されている。



105 若鶴酒造酒蔵 わかつるしゅぞうさかぐら

所在地 砺波市三郎丸

分類 産業建築物（醸造）

竣工 1922年（大正11）

構造 木造切妻造棧瓦葺

所有 若鶴酒造株式会社

概要 砺波平野の中央部で幕末から開始された酒の醸造の大規模な酒蔵である。建物は大正後期に造られ、木造トラス構造で桁行30間、梁間13間の大きさである。北米産の松材が用いられ、大壁の漆喰壁となっている。採光用の大窓が設けられ、装飾的なアクセントとなっている。

106 城端醤油 じょうはなしょうゆ

所在地 南砺市城端町東上町

分類 産業建築物（醸造）

竣工 明治中期

構造 レンガ造

所有 城端醤油株式会社

概要 砺波平野の南端の河岸段丘上には門前町として開け、江戸時代に絹織物で栄えた城端地区の家並みが軒を並べている。大正8年に町内の個人醤油店が合体して城端醤油株式会社を設立し、麹室として使用するためのレンガ造建物を設けた。梁間2間、桁行6間の棧瓦葺片屋根のノスタルジックな建物である。



◎本書掲載の文化財一覧

	名	称	掲載ページ		名	称	掲載ページ
重要文化財	中島閘門		33	登録有形文化財	旧南部鑄造所キューボラ、煙突		52
重要文化財	福野高校厳浄閣		68	登録有形文化財	旧福岡町役場		50
重要文化財	白岩堰堤砂防施設		22	登録有形文化財	旧伏木測候所庁舎、測風塔		50
登録有形文化財	桜橋		31	登録有形文化財	旧南島商行本店		53
登録有形文化財	牛島閘門		33	登録有形文化財	旧小杉貯金銀行本店		55
登録有形文化財	上滝発電所		25	登録有形文化財	小牧ダム		60
登録有形文化財	松ノ木発電所		25	登録有形文化財	庄川合口堰堤		59
登録有形文化財	中地山発電所		25	登録有形文化財	旧宮島村役場		67
登録有形文化財	泥谷砂防堰堤		22	登録有形文化財	旧井波駅舎		65
登録有形文化財	笹津橋		31	登録有形文化財	城端織物組合事務棟		71
登録有形文化財	高岡商工会議所伏木支所（旧伏木銀行）		54	登録有形文化財	本宮砂防ダム		22
登録有形文化財	清水町配水塔資料館旧配水塔 他		44	登録有形文化財	旧下山発電所		14
				登録記念物	立山砂防工事専用軌道		23

5 近代歴史遺産の見方

橋の形式

桁橋

主構造が桁でできている橋。

橋脚の間隔はあまり大きくできないので、短い橋や市街地で多くみられる構造。



ラーメン橋

上部の橋桁と下部の橋脚が一体となった構造の橋。山間部の峡谷をまたぐ橋や、高速道路上の横断陸橋などに多くみられる。(ラーメンとは、ドイツ語で枠組みの意)



トラス橋

トラス構造とは、外から力が加わっても変形しにくい三角形を組み合わせた構造の橋。鉄道橋に多く採用されている。



アーチ橋

主構造がアーチでできている橋。

優美なアーチ曲線を持ち、そのアーチの圧縮力を応用した構造。



吊橋

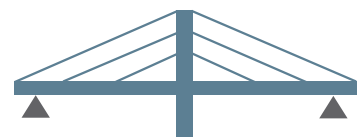
主塔に張り渡されたケーブルから、桁やトラスを吊り下げた構造の橋。

長い区間を橋脚を立てずに渡すことができるため、深い渓谷や広い河、湾などに架ける橋として用いられている。



斜張橋

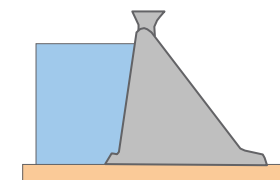
主塔から斜めに張ったケーブルで主桁を吊った構造の橋。斜めに吊ることで、通常の桁橋に比べ長い区間に架けることができる。



ダム

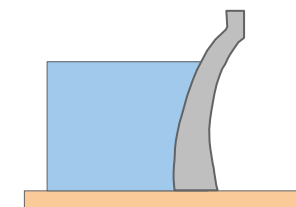
重力ダム

ダム本体の重さによってダムを支えているもの。



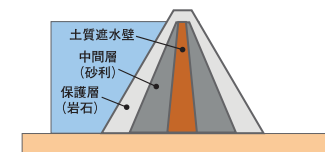
アーチダム

アーチ型にダムをカーブさせることによって、ダムにかかる水圧などの力を効果的に支えられるようにしたもの。



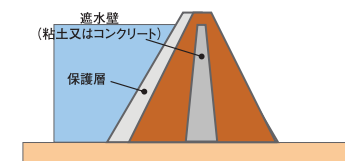
ロックフィルダム

岩石を多く使ったダム。中央に遮水性ゾーンがあるものや、堤体表面をコンクリートやアスファルトなどで遮水するタイプがある。



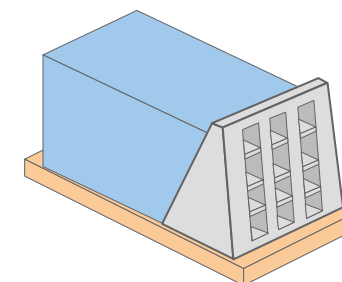
アースダム

土を主な材料として造られ、灌漑用溜池など、最も数の多いタイプ。



バッドレスダム

ダムの壁を、それに対して直角に設けたいくつもの壁(バッドレス)で支えるもの。

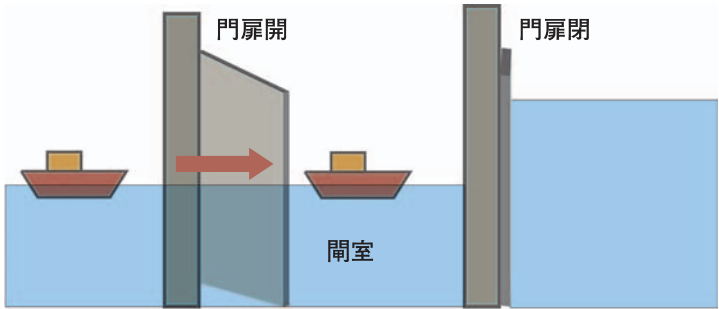


6 とやまの近代歴史遺産百選分類一覧

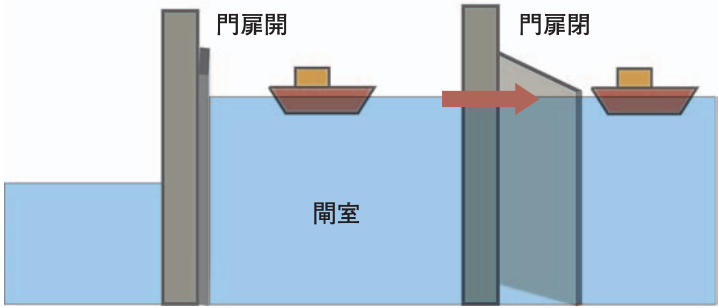
分類 A:治水・砂防・利水関係 B:発電所施設 C:交通関係 D:鉄道関係 E:公共建築物 F:産業建築物 G:その他

閘門の仕組み

水位の低い川から水位の高い川へ移動



門扉が開き、閘室に船が入る。



閘門内で水を塞ぎ止め、閘室内の水位を水位の高い方の川の水位まで上げる。

分類	種類	名 称	市町村	所 在 地	構 造	指 定、選 定	百選 番号	掲載頁
A	砂防ダム	本宮砂防堰堤	富山	常願寺川	コンクリート堰堤	登録有形文化財 日本の近代土木遺産2800選	22	22,23
A	砂防ダム	泥谷砂防堰堤群	富山	泥谷 (常願寺川上流部)	コンクリート堰堤	登録有形文化財 日本の近代土木遺産2800選	22	22,23
A	砂防ダム	白岩砂防堰堤	富山	常願寺川	コンクリート堰堤	重要文化財 日本の近代土木遺産2800選	22	22,23
A	治水ダム	赤祖父溜池堰堤	南砺	川上中	アースダム		78	59
A	治水ダム	庄川用水合口堰堤	砺波	金屋	鉄筋コンクリート重力 式ダム	登録有形文化財 日本の近代土木遺産2800選	79	59
A	灌漑	十二貫野用水	黒部	宇奈月町	コンクリート造		1	6
A	灌漑	愛本用水	黒部	音沢	コンクリート造		2	6
A	灌漑	円筒分水(東山地区)	魚津	東山	コンクリート造		3	7
A	灌漑	円筒分水(貝田新地区)	魚津	貝田新	コンクリート造		3	7
A	灌漑	円筒分水(釈泉寺地区)	上市	上市町釈泉寺	コンクリート造		3	7
A	灌漑	常西合口用水	富山	上滝	石造		24	24
A	灌漑	新庄排砂水門	富山	新庄	レンガ造		24	24
A	灌漑	昭和用水堤	氷見	上田	コンクリート造		49	43
A	堤防類	五厘堤	滑川	大浦	石積護岸	土木学会選奨土木遺産 日本の近代土木遺産2800選	4	8
A	上下水道	水道水源地ベンチュリーメーター台	射水	日の宮地内	コンクリート造		50	43
A	上下水道	旧配水塔・水源池水槽、旧第三 源井上屋(清水町配水塔資料館)	高岡	清水町	鉄筋コンクリート造	登録有形文化財 日本の近代土木遺産2800選	51	44
A	その他	立山砂防工事専用軌道	立山	立山町芦峠寺	鉄道軌道	登録記念物 日本の近代土木遺産2800選	23	23
B	発電施設	愛本発電所	黒部	宇奈月町中ノ口	鉄筋コンクリート造	日本の近代土木遺産2800選	5-1	8,9,10
B	発電施設	黒部川第二発電所	黒部	猫又	鉄筋コンクリート造	日本の近代土木遺産2800選	5-1	8,9,10
B	発電施設	黒部川第三発電所	黒部	樺平	鉄筋コンクリート造		5-1	8,9,10
B	発電施設	片貝第一発電所	魚津	平沢	木造モルタル造 (切妻屋根)	日本の近代土木遺産2800選	7	13
B	発電施設	早月第一発電所	滑川	大浦	木造切妻造		8	13
B	発電施設	旧下山発電所(現発電所美術館)	入善	下山	鉄筋コンクリート造	登録有形文化財 日本の近代土木遺産2800選	9	14
B	発電施設	上滝発電所	富山	中滝	鉄筋コンクリート造	登録有形文化財	25	25
B	発電施設	中地山発電所	富山	中地山	鉄筋コンクリート造	登録有形文化財	25	25
B	発電施設	松ノ木発電所	富山	松木	鉄筋コンクリート造	登録有形文化財 日本の近代土木遺産2800選	25	25
B	発電施設	薄島発電所	富山	八尾町薄島	鉄筋コンクリート造		26	26,27
B	発電施設	成子第一発電所	富山	婦中町成子	鉄筋コンクリート造		26	26,27

分類 A:治水・砂防・利水関係 B:発電所施設 C:交通関係 D:鉄道関係 E:公共建築物 F:産業建築物 G:その他

分類	種類	名 称	市町村	所 在 地	構 造	指 定、選 定	百選 番号	掲載頁
B	発電施設	成子第二発電所	富山	婦中町成子	鉄筋コンクリート造		26	26,27
B	発電施設	五平定発電所	富山	婦中町広田	鉄筋コンクリート造		26	26,27
B	発電施設	四津屋発電所	富山	婦中町広田	鉄筋コンクリート造	日本の近代土木遺産2800選	26	26,27
B	発電施設	下井沢発電所	富山	婦中町下井沢	鉄筋コンクリート造	日本の近代土木遺産2800選	26	26,27
B	発電施設	久婦須川第一発電所	富山	桐谷	鉄筋コンクリート造		27	28
B	発電施設	大久保発電所	富山	塩	鉄筋コンクリート造	日本の近代土木遺産2800選	28	28
B	発電施設	真川発電所	富山	本宮	鉄筋コンクリート造		29	29
B	発電施設	蟹寺発電所	富山	蟹寺	鉄筋コンクリート造	日本の近代土木遺産2800選	30	30
B	発電施設	大牧発電所	南砺	大牧	鉄筋コンクリート造		80	60
B	ダム	小屋平ダム	黒部	木屋平	コンクリート重力式ダム	日本の近代土木遺産2800選	5-1	8,9,10
B	ダム	仙人谷ダム	黒部	仙人谷	コンクリート重力式ダム	日本の近代土木遺産2800選	5-1	8,9,10
B	ダム	真川(調整池)ダム	富山	本宮	鉄筋コンクリート造	日本の近代土木遺産2800選	29	29
B	ダム	小牧ダム・発電所	砺波	小牧	コンクリート重力式ハイダム 鉄筋コンクリート造	登録有形文化財 土木学会選奨土木遺産2001 日本の近代土木遺産2800選	81	60
B	ダム	祖山ダム・発電所	南砺	祖山	玉石コンクリート重力式ダム 鉄筋コンクリート造	日本の近代土木遺産2800選	82	61
B	ダム	小原ダム	南砺	小原	重力式コンクリートダム		83	61
B	その他	跡曳水路橋	黒部	黒蘆	鉄筋コンクリートアー チ橋	土木学会選奨土木遺産 日本の近代土木遺産2800選	5-2	11
C	道路	旧国道天田峠石積の擁壁	小矢部	安楽寺	石積擁壁		84	62
C	道路橋	千寿橋	富山・ 立山	芦峠寺(千寿ヶ原)	アーチ橋	日本の近代土木遺産2800選	31	30
C	道路橋	桜橋	富山	本町	鋼アーチ橋	登録有形文化財 日本の近代土木遺産2800選	32	31
C	道路橋	笹津橋	富山	笹津-西笹津	鉄筋コンクリートアー チ橋	登録有形文化財 日本の近代土木遺産2800選	33	31
C	道路橋	山吹橋	富山	鏡町-高熊	吊橋	日本の近代土木遺産2800選	34	32
C	道路橋	眼鏡橋	富山	八尾町下新町	鉄筋コンクリートアー チ橋		35	32
C	道路橋	対港橋	高岡	能町・米島	鉄筋コンクリートアー チ橋	日本の近代土木遺産2800選	52	45
C	道路橋	高岡大橋	高岡	高岡三女子・射水 大島北野	トラス橋+鋼鈑桁橋	日本の近代土木遺産2800選	53	45
C	道路橋	新庄川橋	射水	庄川本町・庄西町	鉄筋コンクリート桁橋	日本の近代土木遺産2800選	54	46
C	道路橋	朝日橋	氷見	本町～朝日本町	コンクリート桁橋		55	46
C	道路橋	太田橋	砺波	太田	鉄筋コンクリート桁橋	日本の近代土木遺産2800選	85	62
C	隧道	八幡隧道	氷見	藪田・阿尾	素掘り→コンクリート		56	47

分類 A:治水・砂防・利水関係 B:発電所施設 C:交通関係 D:鉄道関係 E:公共建築物 F:産業建築物 G:その他

分類	種類	名 称	市町村	所 在 地	構 造	指 定、選 定	百選 番号	掲載頁
C	隧道	つづら隧道	氷見	氷見市仏生寺・高岡市頭川	素掘り→コンクリート		57	47
C	隧道	金屋洞門	砺波	金屋	鉄筋コンクリート		86	63
C	隧道	宮島隧道	小矢部	宮島	コンクリート造		87	63
C	運河	中島開門(富岩運河水閘施設)	富山	中島	石組み鉄筋コンクリ ート造	重要文化財 日本の近代土木遺産2800選	36	33
C	運河	富岩運河	富山	湊入舟町～草島	石積護岸、鋼矢板護岸		36	33
C	運河	牛島開門	富山	牛島	石組み鉄筋コンクリ ート造	登録有形文化財 日本の近代土木遺産2800選	36	33
C	運河	内川護岸物揚場	射水	庄西町	石積護岸		58	48
C	灯台	万灯台	魚津	新角川	石造	魚津市指定文化財 日本の近代土木遺産2800選	10	14
C	船舶	帆船海王丸	射水	海王町 (海王丸パーク)	帆船		59	48
C	測量	一等三角点組之景	入善	下飯野	石造		11	15
C	自動車	消防自動車(チャンドラ号)	砺波	花園町 (チューリップ公園)	自動車		88	64
D	駅舎	電鉄石田駅	黒部	岡	木造平屋建		12	15
D	駅舎	愛本駅	黒部	宇奈月町内山	木造平屋建		13	16
D	駅舎	泊駅給水塔	朝日町	平柳	レンガ造		14	16
D	駅舎	越中八尾駅	富山	八尾町福島	木造棧瓦葺		37	34,35
D	駅舎	千里駅	富山	婦中町千里	木造棧瓦葺		37	34,35
D	駅舎	猪谷駅	富山	猪谷	木造棧瓦葺		37	34,35
D	駅舎	旧東岩瀬駅	富山	東岩瀬御蔵町	木造平屋建		40	37
D	駅舎	水橋駅	富山	水橋伊勢屋	木造平屋建棧瓦葺	日本の近代土木遺産2800選	41	37
D	駅舎	上堀駅	富山	堀	木造平屋建棧瓦葺		42	38
D	駅舎	岩峠寺駅	立山	岩峠寺	木造平屋建棧瓦葺	日本の近代土木遺産2800選	43	38
D	駅舎	戸出駅	高岡	戸出町	木造平屋建棧瓦葺		60	49
D	駅舎	越中大門駅	射水	北野	木造二階建棧瓦葺		61	49
D	駅舎	城端駅	南砺	是安	木造平屋建棧瓦葺		89	64
D	駅舎	旧井波駅(井波町物産展示館)	南砺	北川	木造二階建棧瓦葺	登録有形文化財 日本の近代土木遺産2800選	91	65
D	鉄道施設	神岡馬車軌道	富山	猪谷	軌道跡		38	36
D	鉄道施設	中越弁慶号	砺波	花園町 (チューリップ公園)	蒸気機関車		90	65
D	鉄道橋	旧山彦橋	黒部	宇奈月温泉	鋼アーチ橋	日本の近代土木遺産2800選	6-2	12

分類 A:治水・砂防・利水関係 B:発電所施設 C:交通関係 D:鉄道関係 E:公共建築物 F:産業建築物 G:その他

分類	種類	名 称	市町村	所 在 地	構 造	指 定、選 定	百選 番号	掲載頁
D	鉄道橋	鐘釣橋(錦織橋)	黒部	黒部峡谷鉄道／鐘釣	鋼アーチ橋	日本の近代土木遺産2800選	6-2	12
D	鉄道橋	跡曳橋	黒部	黒部峡谷鉄道／黒蘆	鋼アーチ橋	日本の近代土木遺産2800選	6-2	12
D	鉄道橋	目黒橋	黒部	黒部峡谷鉄道／猫又	鋼桁橋	日本の近代土木遺産2800選	6-2	12
D	鉄道橋	第一神通川橋梁	富山	JR高山線／神通川	鋼トラス橋	日本の近代土木遺産2800選	37	34.35
D	鉄道橋	第二神通川橋梁	富山	JR高山線／神通川	鋼トラス橋	日本の近代土木遺産2800選	37	34.35
D	鉄道橋	第二砂場橋梁	富山	JR高山線／谷	鉄筋コンクリート充腹アーチ	日本の近代土木遺産2800選	37	34.35
D	鉄道橋	新神通川橋梁	富山	JR高山線＜北陸本線＞／神通川	鋼トラス橋	日本の近代土木遺産2800選	37	34.35
D	鉄道橋	千垣橋梁	立山	千垣	鋼アーチ橋	日本の近代土木遺産2800選	39	36
D	鉄道橋	北陸線小矢部川橋梁	小矢部	今石動・東福町	鉄骨		92	66
D	隧道	北陸線旧クリカトンネル	小矢部	安楽寺～石・津幡町九折	鉄筋コンクリート造		93	66
D	その他	EB5号電気機関車	黒部	宇奈月温泉	電気機関車		6-1	11
E	官公庁	富山県庁舎	富山	新総曲輪	鉄筋コンクリート		44	39
E	官公庁	旧伏木測候所(伏木気象資料館)	高岡	伏木古府	木造平屋建棧瓦葺	登録有形文化財	62	50
E	官公庁	旧福岡町役場(現福岡歴史民俗資料館)	高岡	下向田	鉄筋コンクリート造	登録有形文化財	63	50
E	官公庁	旧小杉町役場(現竹内源造記念館)	射水	戸破中央通	木造二階建棧瓦葺		64	51
E	官公庁	旧小杉郵便局	射水	戸破	コンクリート		65	51
E	官公庁	旧宮島村役場	小矢部	芹川	木造二階建棧瓦葺	登録有形文化財	94	67
E	学校	田中小学校	滑川	加島町	木造二階建棧瓦葺		15	17
E	学校	高岡工芸高校造形実習室	高岡	中川	木骨レンガ造		66	52
E	学校	旧松沢小学校	小矢部	鷺島	木造二階建棧瓦葺		95	67
E	学校	旧富山県立農学校本館(福野高校蔵浄園)	南砺	福野町苗島	木造二階建棧瓦葺	重要文化財	96	68
E	図書館	旧授眼蔵図書館	南砺	福野上町	木造平屋建棧瓦葺		97	68
E	病院	脇坂医院	入善	舟見	木造二階建		16	17
E	病院	高橋医院	滑川	小林	木造二階建棧瓦葺		17	18
E	病院	旧高宮病院	南砺	高宮	木造		98	69
F	工場	旧呉羽紡績呉羽工場	富山	呉羽町	鉄筋コンクリート		45	39
F	工場	旧富山紡績工場	南砺	福野	木造棧瓦葺		99	69
F	工場	西川産業	南砺	城端	木造棧瓦葺		100	70

分類 A:治水・砂防・利水関係 B:発電所施設 C:交通関係 D:鉄道関係 E:公共建築物 F:産業建築物 G:その他

分類	種類	名 称	市町村	所 在 地	構 造	指 定、選 定	百選 番号	掲載頁
F	作業場	旧南部鋳造所キューボラ及び煙突	高岡	金屋本町	キューボラ:鉄製 煙突:レンガ造	登録有形文化財	67	52
F	事務所	東洋紡入善工場事務所	入善	入善	木造二階建棧瓦葺		18	18
F	事務所	電気ビル	富山	桜橋通り	鉄筋コンクリート		46	40
F	事務所	旧南島商行本店(現牧田組本社)	射水	庄西町	木骨レンガ張	登録有形文化財	68	53
F	事務所	本川家住宅	氷見	比美町	木造二階建棧瓦葺		69	53
F	事務所	木村産業株式会社	砺波	金屋	鉄筋コンクリート造		101	70
F	事務所	城端繊維組合事務所棟	南砺	城端	木骨モルタル造	登録有形文化財	102	71
F	事務所	旧富山紡績井波工場	南砺	山見	木造棧瓦葺		103	71
F	銀行	旧十二銀行事務所棟	魚津	本町	木造棧瓦葺		19	19
F	銀行	旧十二銀行米倉	魚津	本町	木造		19	19
F	銀行	富山第一銀行本店	富山	総曲輪	鉄筋コンクリート		47	40
F	銀行	旧高岡共立銀行本店(現富山銀行本店)	高岡	守山町	レンガ造銅版葺		70	54
F	銀行	旧伏木銀行(高岡商工会議所伏木支所)	高岡	伏木湊町	土蔵造	登録有形文化財	71	54
F	銀行	旧小杉貯蓄銀行本店(現小杉展示館)	射水	戸破	土蔵造	登録有形文化財	72	55
F	銀行	旧中越銀行本店(現砺波郷土資料館)	砺波	花園町	土蔵造		104	72
F	倉庫	網主倉庫	氷見	中波	木造		73	55
F	醸造所	林酒造場	朝日町	境	木造切妻造棧瓦葺		20	19
F	醸造所	旧醤油醸造石蔵	氷見	北大町	石造		74	56
F	醸造所	若鶴酒造酒蔵	砺波	三郎丸	木造切妻造棧瓦葺		105	72
F	醸造所	城端醤油	南砺	城端(東上町)	レンガ造		106	73
F	その他	伏木湊町の建物群	高岡	伏木湊町	土蔵造など		75	56
G	公園	旧八ヶ山遊園	富山	八ヶ山			48	41
G	公園	高岡古城公園	高岡	定塚町			76	57
G	公園	朝日山公園	氷見	朝日山			77	57
G	台場	生地台場	黒部	生地	土堰堤		21	20

「とやまの近代歴史遺産」百選マップ

